超ゆとり教育

18

ふらいんぐ おねーさん!!

-Vol.1-

ふらいんぐ■いっちの茜＆犬養お姉さんおっぱいCG集!

ふらいんぐおねーさん-Vol.1-

ぷるんっ
ぷるっ
ぷるっ
西「いやーーっ、いっぱい汗かいちゃったから、さっぱりしたよーー♪いつでもシャワーに入れる
日本ってやっぱり便利だよねー」
真琴「ちょっ！！？おっ、お姉ちゃん服服っ！！」

꼭꼭
茜「細かい事言わないのー真琴は♪無礼講無礼講、はっはー♪」
真琴「いくら家の中だからって…、仮にもK君の前でそんな…」

K「まーちょっと気持ちわかるかも。俺も夏、暑いとパンツ一枚でうろついてたりしたしさ。
…真琴が来る前の話だけど。それでかーちゃんによく怒られたな」
茜「そそっ、固い事言いっこなしだって♪」
真琴「結局怒られてる事には変わりないじゃないですかー」

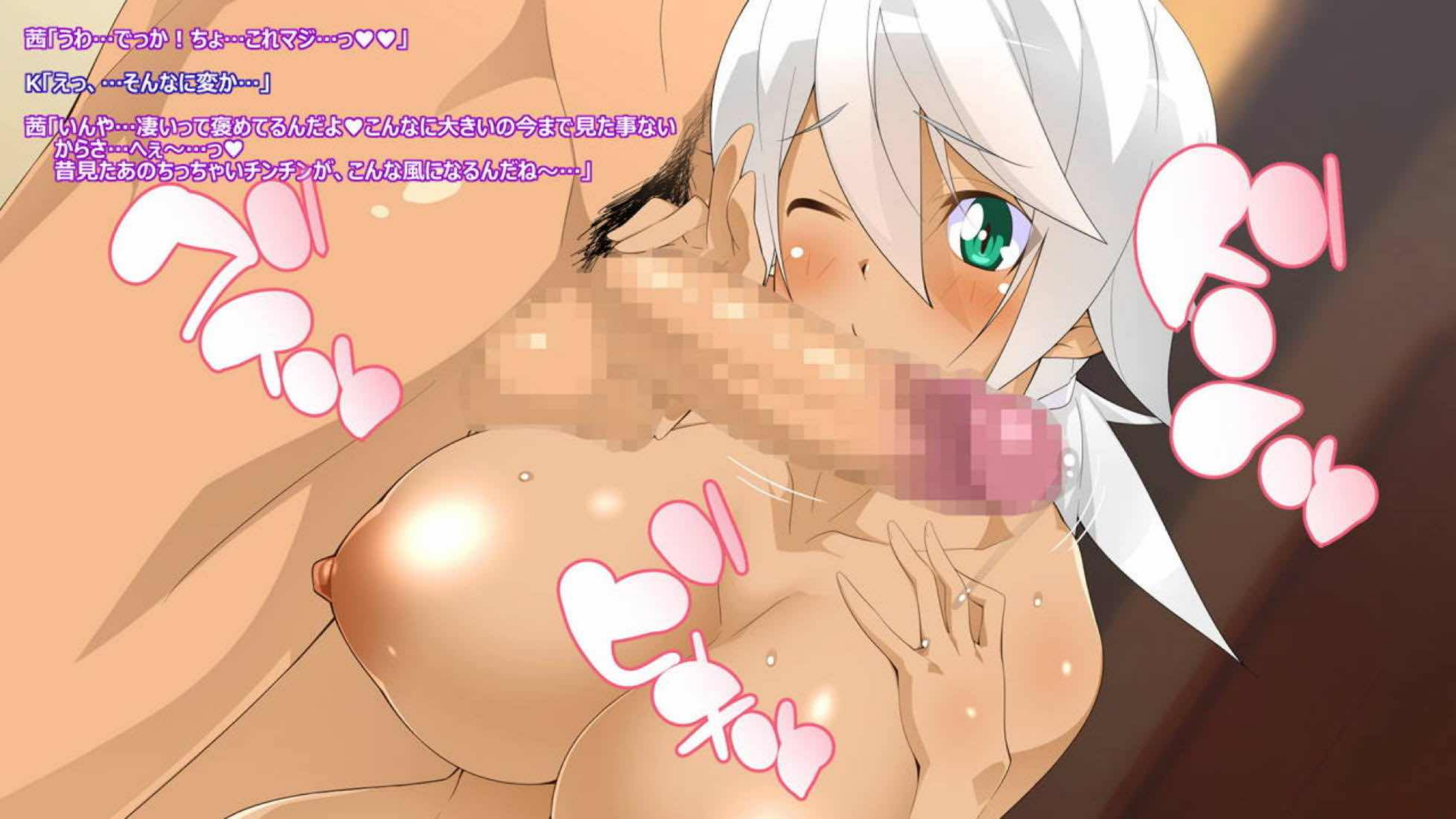
짜잔~♥
茜「ねえ、K？ほれほれ、今ならおっぱい見放題だぞーっ♥ぶるんぶるーんっ♥♥」
K「はぁ…？」
真琴「……」

脱ぬぎっ
ぷるんっ
ぷるんっ
茜「んしょ…っ♥ふぅ…っ♥♥」
K「ちょ…ねーちゃん、いきなりなんで脱いでるんだよ」
茜「何って…決まってるじゃん♥Kとこれから Hするんだよ♥♥Kの筆卸し、あたしがきっちりやったげる♥」

K「いきなりそんな事言われても…」
茜「ほらほら、そう言ってTもKの目、おっぱい追ってる♥」
K「んぐっ、あぁ…ちくしょう…」

ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
茜「(あらら…ホントにガン見しちゃってる…っ♥こりゃ本当に溜まっちゃってるみたいだね…)」
K「…ゴクリ」
茜「ふふ…っ、よしよし…っ♥」

ドキドキ
トクン♡
茜「大丈夫、安心しな。そんな変なつもりじゃないから、今は素直にあたしの言う通りにして…」
茜「いっぱい、気持ちよくなろ♥ねっ、Kぇ♥」
K「う…うぅ…うん…」
茜「よし…っ♥♥(あー…こっちもドキドキしてきた…フフッ♥)」


茜「うわ…でっか！ちょ…これマジ…っ♥♥」
K「えっ、…そんなに変か…」
茜「いんや…凄いって褒めてるんだよ♥こんなに大きいの今まで見た事ないからさ…へぇ～…っ♥
昔見たあのちっちゃいチンチンが、こんな風になるんだね～…」
ぺろぺろ
ぺろぺろ
ぴちゃぴちゃ

茜「臭いだって凄いし…ふふ…っ、これはやりがいがありそうだねぇ…っ♥♥」
茜「それじゃK、少しばかり味見…させてもらうね…っ」
K「おっ、おぅ…」

茜「んぁむっ♥♥ぢゅるるっ♥んぐっ♥♥」
K「うぅっ！！ねーちゃんの口の中に…っ！」
茜「ぢゅるっっ♥ぢゅぱっ♥ぢゅぢゅっ♥♥ごくっ♥」
ぢゅぱっ
ぢゅぱっ
ぢゅぱっ

茜「ひゅごっ♥Kのひんぽっ♥♥おっひふぎぃ♥♥くひんなかっ、はいりひらないっ♥♥ぢゅるるっ♥♥」
K「うぉお…っ！！くぅ…っ！」
茜「(口の中いっぱいにKのいろんなものが混ざった味が広がってくるぅーっ♥♥
これがっ、これがKのチンポっ♥男の子の味ーっ♥♥)」
ぢゅるっ
ぢゅっ
ぢゅぷぷ

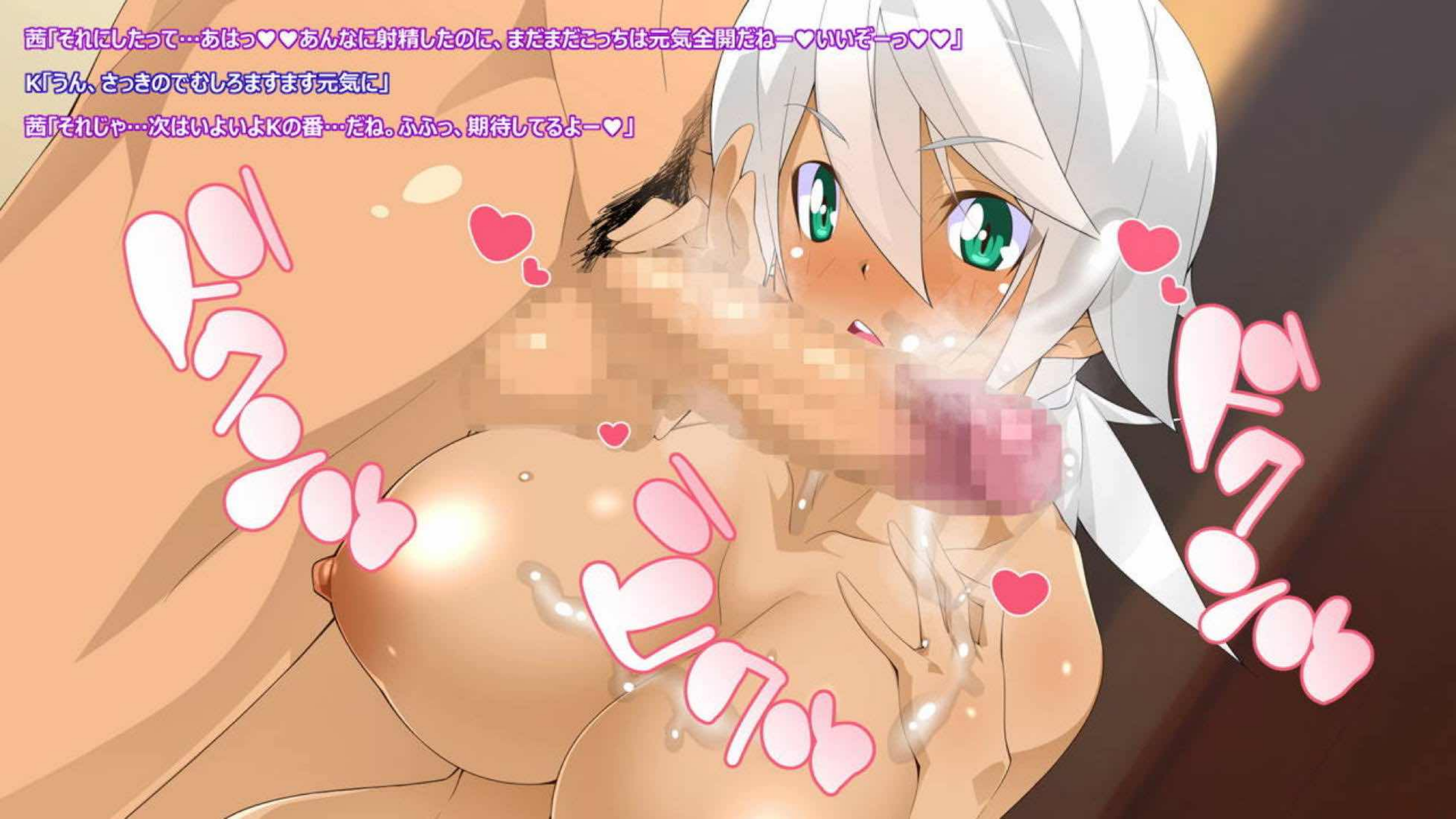
茜「こんにゃのっ♥♥ぢゅばばっ♥♥れっらいっ♥♥やみふきににゃるにっ♥♥ひまっへんにゃんっ♥♥」
茜「(すごっ♥♥チンポしゃぶっただけでやばいっ♥♥テンション上がるぅっっ♥♥こんなの反則っ♥♥)」
K「やっべ…気持ち良すぎる…！」
ぢゅばっ
ぢゅるるっ
ぢゅるっ

茜「ぢゅぱっ♥♥ぢゅるるっっ♥♥ぢゅぞっ♥♥ごくんっっ♥♥ぢゅぢゅっ♥♥」
K「あっ、イク…ねーちゃん…射精そう…っ！」
茜「いひよっ♥♥だひなっ♥♥へんぶっ♥♥おにぇーひゃんがっ♥♥
のんれあへるっっ♥♥♥」
ぢゅるっ
ぢゅっ
ぢゅっ

K「っっっ！！うぅ…っっ！！」
茜「んんっっっ♥♥♥んぶっっ♥♥♥」
茜「(うぉおおっっっ♥♥Kのクリームチーズみたいなザーメンがっ、口の中にぃっ♥♥
やばっ♥♥多すぎっ♥♥♥こんなの飲みきれ…っっ♥♥)」
どぴゅっ!!
びゅるっ!
べちゃっ!

茜「……っ♥♥んふっ♥♥…ぢゅるるっっ♥♥ごく…っ、ごくん…っっ♥♥」
K「すげ…俺のを全部飲んでる…」
茜「(んんっ♥♥喉を通る度に…っ、ねばねばが絡み付いてきて咽そうっ♥♥
でも…っ、止めらんない…っっ♥♥飲まずにいられないっっ♥♥)」
ぢゅるっ…♥
んぐっ…♥
んぐっ?

茜「…ぷはぁ～～～っっ♥♥♥」
K「ねーちゃん…その…、ありがと…」
茜「なーに言ってんの、Kーっ♥こっちこそごちそうさまーっ♥♥Kのオチンポ汁っ、
とっても濃厚で美味しかったよーっ♥」
ぷはぁ♥
ぴくっ♥
ぴくん♥


茜「それにしたって…あはっ♥♥あんなに射精したのに、まだまだこっちは元気全開だねー♥いいぞーっ♥♥」
K「うん、さっきのでむしろますます元気に」
茜「それじゃ…次はいよいよKの番…だね。ふふっ、期待してるよー♥」
ドクッ♥
ドクッ♥
ドクッ♥
ドクッ♥

茜「(ちょっと前に犬養とそんな話したけど…こんな事になるなんてね…わかんないもんだねー)」
K「…隣で寝てる真琴に気づかれないかな」
茜「平気っしょー、あの子一度寝たら朝まで絶対起きてこないから」

茜「さて…と♥あたしはこのまま寝そべってていいのかな～♥わかんなかったら教えてあげようか？♥」
K「へっ、平気…それくらいわかるべ」
茜「(強がっちゃって…、ふふっ♥でも…初々しいのもまた可愛くていいね…っ♥♥)」
ぷるっ
ぷるっ

茜「間違って違う方に入れちゃ駄目だよー、ん…っ♥♥」
K「わかってるって…よし…っ、はっ、入った…っ」
茜「んん…っ♥♥あぁ…っっ♥♥♥」
茜「(とうとう本当に…Kのオチンチン…入っちゃったぁ…っ♥♥)」
ぱんぱん
ぱんぱん
ぱんぱん
ぱんぱん

K「うぁ…膣内の感触…すげぇ」
茜「そーだよー、Kのおちんちんがね…、あたしのいっちばん気持ちいいとこまで入っちゃってる…♥
Kぇ…好きなように思いっきりかき回していいからね…っ、期待してるよっ♥♥」
K「う…うん…っ、やるぞ」
ぐちゅっ
ぐちゅぐちゅ♥
ぬちゅっ

茜「んひっ♥♥んんっ♥♥あっ、あぁっ♥♥んくっ♥♥んっ、んっ、んんっっ♥♥」
K「はぁ、はぁっ！」
茜「（んふふっ、Kったら夢中になって…っ♥♥がむしゃらに突いてきてるっ♥♥
ほんっと、可愛いんだから…っ♥♥）」
ずぶっ
ずぽっ
ずぶっ

茜「んぁあっ♥♥Kぇっ、気持ちいいっ？♥♥お姉ちゃんのオマンコっ、んん…っ♥♥
もっと、突き回したい？♥♥」
K「うんっ、めちゃ気持ちいい…っ！」
茜「そっかそっかぁ…っ♥♥んひいっ♥♥いいよっ、いくらでも膣内を突いてっ♥♥」
ずぽずぽ♥
ぐりぐり♥
ぐりぐり♥

K「はぁっ、はぁっ！ねーちゃんも…っ、気持ちいいか…？」
茜「もっちろん…っっ♥♥Kのオチンポ…っ、すっごい気持ちいい…っ、太くって固くって…
大きいのが奥まで簡単に…届いちゃってる…っ♥♥」
K「おっ、おし…じゃあもっと頑張るっ」

茜「んぁあっ♥♥そこぉっ♥赤ちゃんのお部屋の入口ぃ…っ♥♥Kぇ、今おちんちんの当たってるところが…
女の子が一番気持ちよくなれるとこ…っ、ガンガン突いちゃってる…っっ♥♥」
K「これがそうか…っ、コリコリしてる…！」
茜「んぁああっっ♥♥♥(ますますおちんちんの突きが強くなってきたぁっ♥♥
固い先っぽ部分がっ、子宮口にコツコツって当たって…っっ♥♥ディープキスしてるぅっ♥♥)」

K「やばい…っ、ねーちゃんもう…っ！」
茜「ふぅっ、ふぅっ、んんっっ♥♥射精そうなんでしょ…っ♥♥いいよ、構わないからこのまま
射精しちゃいな…っ♥♥全部膣内でおねーちゃんが受け止めてあげるからっ♥♥
いっぱい、膣内射精してっ♥♥」
K「いいのか…っ、マジやっちゃうよ…っ！あぁ…っ！ホントに…っ！」

茜「んんっっっ♥♥♥あっ、あぁっっ♥♥♥んんぁあっっっ♥♥♥」
K「ふっ！！うぅ…っっ！！あぁっっ！！」
茜「(熱いのが…っ、Kのザーメンが膣内に流れ込んでくるぅっ♥♥♥膣内射精されちゃってるぅっ♥♥
Kの精液っ、オマンコの一番奥で受け止めてるぅ…っっ♥♥♥)」
ビクッ！
ぶるっ！
ぶるっ！
ぶるっ！

K「はぁ…っ、はぁ…っ」
茜「はぁ…っ♥はぁ…っ♥お姉ちゃんも、KとH出来て…めっちゃ良かったよぉ…っっ♥♥
病み付きになっちゃいそう…っ♥♥」
K「そっ、そう…かな、俺…そんなに良かった…？」
茜「うん……っ、最高……っっ♥♥♥」
はぁ～っ♥
はぁ～っ♥
ぐちゅっ♥
ぶぴゅ♥

Asahi
生
スーパードライ
500ml
ぷにぷに
ぷにぷにぷにぷに
茜「ごくっごくっ…ふぃ～～、すっきりした～♪ほい、Kの分の水。…どう？少しは落ち着いた？」
K「あ…っ、どうも…ありがとう、ねーちゃん。うん…まあさっきよりは大分」
茜「さっきのK凄かったもんねー、あたしもびっくりだったよー、色々と」

K「その…ねーちゃんごめん。勢いでその…膣内射精までしちゃって」

茜「いいのいいのー、同意の上なんだから気にする事ないってー。それよりさー、どうだった？お姉ちゃんとのセックスはー？人生初めてだったんでしょ？」

K「うん…めっちゃ気持ちよかった」

K「ねーちゃんこそ平気か？」
茜「こんなの大したことないよ～、ぶいぶい♥♥あたしもすっごく久しぶりに気持ちよくなっちゃった♥
Kのオチンチンがおっきいせいかな、ふふっ♥♥」
K「そう言われると照れるな」

K「……っ」

茜「(お～っ、また見てる見てるぅ～っ♥あたしのおっぱい、わかりやすいくらいガン見してるっ♥あんなに激しかったのに
復活早すぎだね…っ♥魔男半端ないわ～っ♥)」

茜「(でもこれだけ正直にムラムラしてくれると、こっちもやっぱり嬉しいもんだね…っ♥ふふっ♥)」

Asahi
DRY
生
スーパードライ
500ml
茜「よ～し…それじゃーちょっと休んだらまた続きやろっか？♥」
K「えっ！…まだいいのっ？」
茜「Kこそ、まっだまだヤり足りないっしょ？♥ちゃんと全部吐き出すまで、お姉ちゃんが付き合ってあげよー
じゃないか♥ムフフッ♥」

ぷるぷる
ぷるぷる
K「じゃっ、じゃああの…せっ、せっかくだから…そのっ」
茜「んん～っ？何かして欲しい事あんの？言っちゃえ言っちゃえ～っ♥お姉さんがなんでも聞いたげるよ～っ♥
さあ、K君はどうしてもらいたいのかなぁ～っ♥」
K「その…っ、ねーちゃんのおっぱいで…っ」

ぷるぷる♥
ぷるぷる♥
ぷるぷる♥
茜「よっと…、こうやって挟む…っと♥なるほどなるほど～、こうなるわけか…っ♥♥ふふっ、これでいいかな～、K君？♥♥」
K「すげ…まるで夢のようだ」
茜「あららっ♥♥そんなに嬉しいんだ…っ、よぉ～し、じゃあお姉ちゃん張り切っちゃおうかな～っ♥♥」

茜「んっ♥よいしょっ♥ほっ♥Kのおちんちんっ、お姉ちゃんのおっぱいで♥
気持ちよ～くなれっ♥」
K「くっ……！あぁ…っ！」
茜「ちゃ～んと挟んでっ♥たっぷり扱いてあげるからね～っ♥
んしょっ♥よっ♥♥」
ぱいぱい
ぱふぱふ
ぱふぱふ

茜「あはっ♥♥Kのおちんちんがびくびくって動くのが凄くわかるっ♥こうやっておっぱいをぎゅっとして…っ♥コスってあげると…っ、ほらっ♥♥」
K「うぉおっっ!!はぁっ、はぁ…っ!」
茜「あははっ♥♥Kったら思わず声まで上げちゃって…っ♥♥嬉しいっ♥ますますパイズリ頑張っちゃうぞ~っ♥」
ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる

ちゅぱっ♥
ぷるんっ♥
ぷるんっ♥
茜「昔の人は…っ、よく考えたもんだね～っ♥♥こんな風に…っ、おちんちん気持ちよくする方法思いつくんだからさ…っ♥♥」
K「ねーちゃんのおっぱいがデカいおかげさ…っ！」
茜「ありがとー、K♥それじゃあしっかり有効活用…っ、していかなくっちゃあねっ♥♥うりゃっ、うりゃっ♥♥」

ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
茜「おっ、おっ♥♥ふふっ、K♥そろそろ射精しそうなんでしょ～っ♥♥
わかるよ～っ♥♥おちんちんがぶく～って膨れてきて、
今にも爆発しそう…っ♥♥」
K「う…うんっ、俺…もっ、もう…っっ!!」
茜「いいよー、このまま射精してっ♥♥お姉ちゃんのおっぱいで、
Kのとびっきり濃い精液♥たっくさんぶちまけてちょーだい♥♥」

茜「きゃっっ♥♥♥うわわっ♥♥あはっっ♥♥すごっっ♥♥♥こんなに射精るんだっ♥♥♥」
K「ううっ!!はぁっ、はぁっ!!うぁあっっ!!」
茜「おっぱいの中で、Kのおちんちんがびくびくって跳ね回ってるっ♥♥壊れた蛇口のホースみたいにザーメン撒き散らしてっ♥♥」
どぴゅっ!
びゅっ!
びゅっ!

茜「はぁ～～～…っっ♥♥すっごいたくさん射精たね～っっ♥♥おかげで
ドロドロだよ～っ♥Kのねばねばザーメンがあちこち
飛び散っちゃって…っ♥♥それにこの匂い…っっ♥♥♥」
K「はぁ…っ、はぁ…っ！パイズリ…超気持ちいい…っ！」
茜「うふふっ、なんて幸せそうな顔してんのー♥♥こっちまで嬉しくなる
じゃない♥♥K、これからはお姉ちゃんに頼めば、
いつでもいくらでもパイズリしてあげよーねっ♥♥」
ぺたぺた…♥
ぐぷぷっ♥
ぐちゅっ♥

ぐぽぐぽ
ぐぽ
ぐぽ
茜「んっ、んんっ♥♥そそっ、それでいいよ…っ♥落ち着いて…っ、ゆっくり楽しまなくっちゃ…っ♥♥
んぁあっ♥♥」
K「うんっ、ねーちゃん…っ、はぁっ、はぁ…っ」
茜「あっ、あっ、んんっ♥♥オチンポ…っ、奥まで届いて…っっ♥♥んくっ♥♥」

ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
K「ねーちゃんのおっぱい…目の前で揺れて…っめっちゃエロい…っ！」
茜「んふっ♥♥Kったら…っ、昔っからホントおっぱい好きだねぇ…っ♥♥」
K「だって…っ、ねーちゃんのおっぱい、デカいし…っ！」

ぷにぷにっ♥
ぷにぷにっ♥
ぷにぷにっ♥
茜「あんなにちっちゃかった子が…いつのまにかこんなに逞しくなっちゃって…っ♥♥あたしと…っっ♥♥
んんっ♥♥」
K「うぁあっ！ねっ、ねーちゃんっ、その動き…っ！！」
茜「へっへ～っ♥♥良い声出たね、Kぇ～♥♥こうやって腰回すとぉ～っ、めっちゃ気持ちいいっしょ♥♥」

ぷにぷに
ぷにぷに
ぷにぷに
K「ねーちゃん…気持ち良い…っ！ずっとこうしてたい…っ！」
茜「いいよ～っ、K～。いつでも好きなだけHな事させてあげるから～、遠慮しないでいくらでも頼みな～っ♥♥
あたしもたまんないくらい気持ちいいからさっ♥♥」
K「うんっ、うん…っ！ねーちゃん…っ！」

ズボッ
ズボッ
ズボッ
ズボッ
茜「んっ、んっ、んんっ♥♥おちんぽガンガン来る…っ♥♥お姉ちゃんイキそう…っっ♥♥
Kもそろそろだよね…っっ♥それじゃ一緒に…っ、んんっ♥♥イこっか？♥♥」
K「はぁっ、はぁっ！イク…！」
茜「いいよ…っ♥♥それじゃ……っっ♥♥とびっきり濃いのをまた…っ、お姉ちゃんの膣内に…っっ♥♥
いっぱい射精してぇっ♥♥あっ、あっ、あっっ♥♥イクっ、イクぅっっ♥♥♥」

ぶしゅっ！
ぶしゅっ！
ぶしゅっ！
K「ふぅうっっ！！ん…っっ！！ああっ！！」
茜「んぁあっっ♥♥♥あ……っっっっ♥♥♥イ…っっ、くうう……っっっっ♥♥♥♥」
茜「(どくっ、どくって膣内でオチンポが脈打ってっっ♥♥やけどしそうなくらい熱い精液がっ♥♥
いっぱい射精てるっっ♥♥♥)」

茜「ん……っっっ♥♥♥はぁあ～…っ♥♥♥はぁ～…っ、はぁ～…っ♥♥また…いっぱい射精しちゃったね…っ♥♥
Kぇ…っ♥♥ねぇ…、ぎゅうと手握って…っ♥♥」

K「うん…、ねーちゃん…っ」

茜「明日からもい～～っぱい、Hしようね…っ♥♥Kぇっ♥♥いつだって…っ、どこだって…っ、付き合ってあげる…っ♥♥」

K「うぉ…っ！やっぱ…でかい！」
茜「すぴー…っ、すぴー…っ」
K「何食べたらこんなにデカくなんだろ…？でも…すげぇ」
ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる

茜「んぁ…っ♥んん…っ、にゃはは…っ、ぐがーっ」
K「うぁあ…っ、柔らけぇ…それに…もっちもちしてるぅ…」
K「こんなのねーちゃんじゃなきゃ…完全に犯罪だな…」

K「寝てるねーちゃんにいたずらとか…なんつーか…背徳感半端ない…っ」
K「揉んでるだけですげー気持ちいいぞ、これ…」
茜「んにゃ…っ♥んぁあ…っ♥すぴーっ」
ぷにぷに
ぷにぷに

K「全然起きないし…このままアレやってもいいかな…？いいよな」
茜「すぅ…っ、すぅ…っ」
K「ねーちゃん、わりぃ…ちょっと使うからな」
ぷにっ
ぷにぷに
ぷにぷにっ

茜「すぴー…っ、すぴー…っ。んぁ…っ、ぐぅ…っ」
K「はぁ…っ、はぁ…っ！寝てるねーちゃんのおっぱいで…」
K「パイズリ…っ！たまんないな…！！」
ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる

K「呑気にイビキかいて…っ！はぁっ、はぁっ！」
茜「ぐぅ～っ、ぐぅ～…っ。んん…っ♥♥にゃぁ…っ♥」
K「あ～…気持ちいい…っ！」
ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる

K「く…っ、腰が止まらねえわ…っ！」
K「ねーちゃん…っ、このまま射精すよ…っ！ごめん…ぶっかけるからっ！」
茜「ん…っ、んん…っ♥♥」
パンパン
パンパン

K「あぁ…っ！でっ、射精る…っ！ねーちゃん…っ！！うぁあっっ！！」
茜「っっっっ……♥♥♥♥♥」
K「はぁっ、はぁっ！射精っ、止まんないっ！！まだ…っ、射精るっっ！！」
どくっ
びゅっ
びゅるっ！

K「はぁ…っ、はぁ…っ、はぁ…っ！」
茜「……っ♥んにゃ…っ♥んん……っ♥♥」
K「でもこれ…っ、どうしよ…後でちゃんと拭いておかないと…やばいかも…」
ぺろぺろ
ぺろぺろ

K「うぉお…っ！丸見え…っ」
茜「すぴー…すぴー…」
K「これでもまだ起きないとか…逆に凄いな…でもそれなら」

ぷにっ
ぷにっ
ぷにぷにっ
ぷにぷにっ
茜「んぁ…っ♥んにゅ…っ♥♥ふぁ…っ♥♥」
K「慎重に…っ、ゆっくり…っ！！うぉ…っ！」
K「(これもう完全に犯罪…っ、だよな…っ！)」

ぐぽぐぽ
ぐぽぐぽ
ぐぽぐぽ
K「ねーちゃんの膣内…っ、めちゃくちゃ…気持ちいいっ！」
茜「ふ…っ♥♥んぁ…っ♥はにゃ…っ♥んん…っ♥♥」
K「くぁあっ！ふぅっ！はぁっ！」

ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
茜「ぁ…っ♥♥んん…っ♥んぉ…っ♥♥」
K「ねーちゃん…もしかして反応してる…っ？」
K「だったら…もっと突く…っ！」

ぶるん
ぶるん
あっ
K「はぁっ、はぁっ！もっ、もう限界…っ！射精すよ…っ！」
茜「あ…っ、んんっ♥♥はぁ…っ♥♥んぁ…っ♥♥」
K「射精るっ、射精るっっ！！あぁ…っっ！！！イクっっっ！！！！」

ぶるっ！
ぶるっ！
ぶるっ！
茜「っっっ……♥♥♥♥♥♥♥」
K「ぐっっ！！はあっ、はあっっ！！」
K「さっ、最後の一滴まで…っっ、全部…っ、ねーちゃんの膣内に…っっ！！！」

ぱすぱすっ
ぐちゅっ
茜「んふふ…っ♥♥またいっぱい射精たねぇ…、Kぇっ♥♥あたしの膣内…っ、あんたの精液でたっぷたぷだよ…っ♥♥」
K「えー…っ、ねーちゃん起きてたのか…っ！やられた…っ！」
茜「にひひ～っ♥ごめんね～、Kの反応が見たくって～、途中から寝たフリしてたんだよ～んっ♥♥」

K「くっそ…ねーちゃんには敵わないなぁ」
茜「あははっ、ごめんごめんっ♥♥でも、Kぇ♥♥その分、めっちゃ良かったっしょ？いつもよりさらに興奮してたよ～っ♥♥」
K「確かに…って、そういう事じゃないってば」

茜「よっと！…いやーねー、Kがちょいと心配になってさー、様子を見に来たってわけよー。はっはー♥
茜おねーちゃんの特別主張サービスぅ～っ♥な～んてねっ♥♥」
K「様子見に来たって…こんな昼間に空飛んで大丈夫なん？」
茜「まあそこんとこは魔法でチョイチョイ…とね♪ちなみにこれ、真琴の制服ねー。勝手に借りちゃった♥」

ぷるん
ぷるっ
ぷるっ
茜「やっぱ真琴のだとかなりキツいねー、特に胸のあたりが。あの子も大分おっきくなってると思うんだけど」
K「…ごくっ」

茜「…おっ、やっぱ反応してくれてる♥むふふ～っ、どう？あたしもまだまだ現役でいけるっしょー？♥♥」

K「なんつーか…ギャップがたまんない」

茜「よしよし…わざわざ来た甲斐があるってもんだよー♥」

K「つか、そろそろバレる前に帰ってくれよ」

茜「あーだめだめーっ、あんた朝にしっかり処理しなかったでしょ？今のKは一日最低10回は射精しないと
大事なタマタマが破裂しちゃうんだぞ(多分だけど)」

K「まさか…ここで処理すんの？」

ぷちぷち
ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
茜「そのために来たんだし♪…安心しなよ、学校にはバレないって。ってか、早くしないとホントにやばいんじゃない？」
K「うく…っ、じゃあお言葉に甘えて…」
茜「そーそー、遠慮しなさんな…ふふっ♥♥」

K「んちゅっっ！！ちゅるるっっ！ちゅぱっ！」

茜「おほほ～っ♥がっついてるぅ～…♥ずっと我慢してたんだもんね～…っ、んんっ♥♥遠慮なくあかりな～っ♥」

K「ちゅるるっ！ちゅっ！あむ…っ！ちゅぱっ！ちゅちゅっ！」

ぢゅっ

ちゅるっ

ぷるぷる

茜「（Kったら夢中になってあたしのおっぱいにしゃぶりついてる…っ♥♥
乳首全体を舐るように舌で転がして、強く吸い上げて…っ♥♥
どんなに頑張ってもミルクなんか出ないのに…っ♥♥可愛い…っっ♥♥」
茜「どう…あたしのおっぱい…美味しい？」
K「ちゅるるっ！……言うまでもなく」
ぢゅるっ
ぢゅるっ
ぢゅるっ

茜「んん…っ、ふぅ…っっ♥そんな熱心におっぱいしゃぶられたら…っ♥♥こっちも気持ちよくなってきたじゃない…っ♥♥」
K「乳首…っ、固くなってきた…っ！ちゅぶっ！」
茜「はぁ…っ、はぁ…っっ♥♥あぁっ、駄目…っっ♥♥乳首そんな風に甘噛みしちゃ…っっ♥♥ん…っっ♥♥」
ぷるぷる♥
あっ♥
ぷるぷる♥
ぷるぷる♥

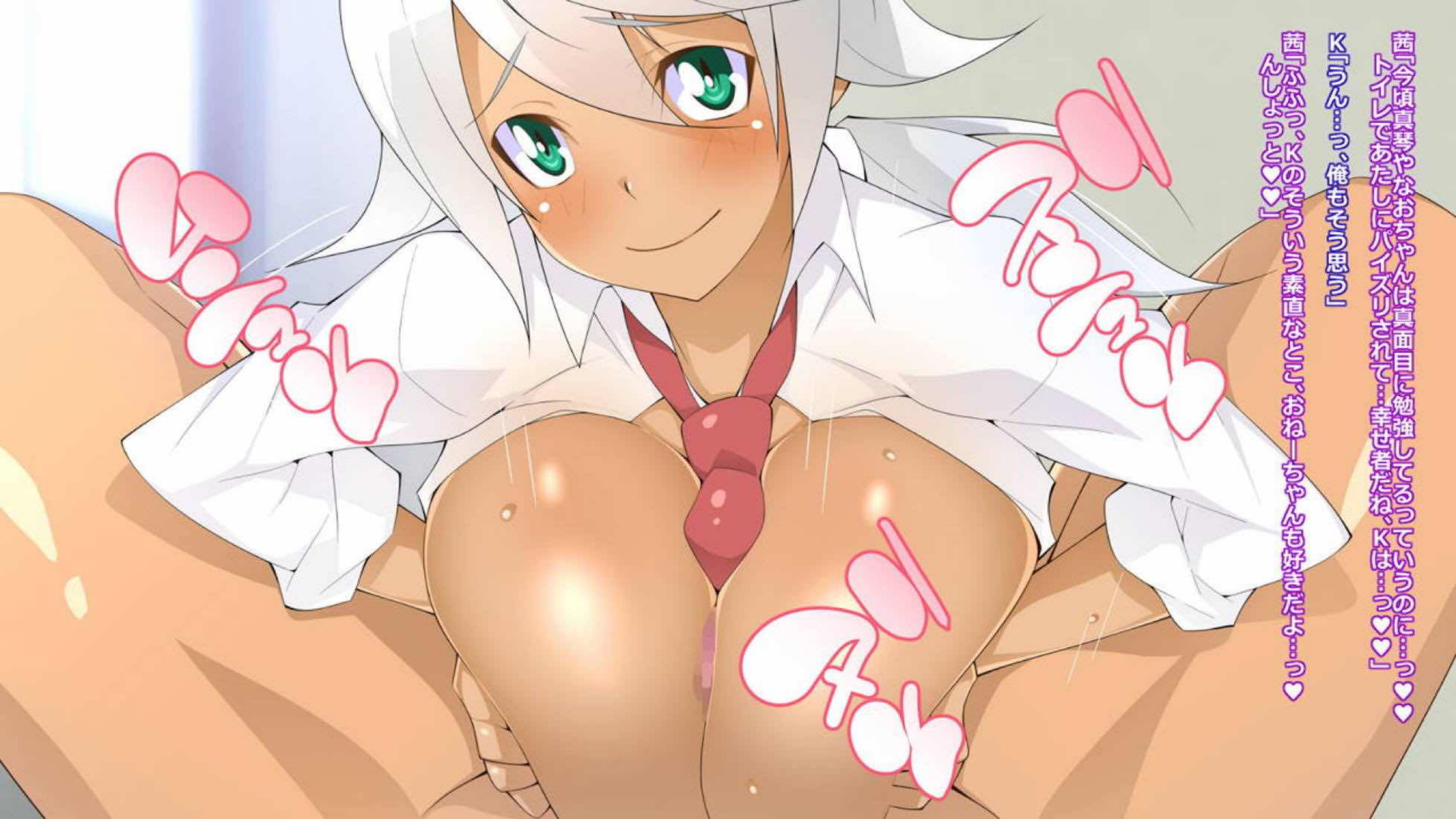
茜「あぁ…いいよKぇ…っ♥おねーちゃん…ぞくぞくしてきちゃう…っ♥♥
んっ、んんっ♥♥んぁあっ♥♥」
K「ちゅっ!!ちゅぱっ!!」
茜「あっ、あっ、あぁぁ――っっ♥♥♥」
ぐにゅ
ぐにゅ
ぐにゅ

茜「はぁ…っ、はぁ…っんん…っ、はぁ～…っ♥♥」
茜「(やっぱ…♥おっぱいだけで…イっちゃったぁ…♥♥こんなの初めて…、あぁ…もうますますKにハマっちゃいそう…っ♥♥)」
K「ちゅちゅ…っ、おっぱい…美味い…っ」
茜「んもぉ…Kったら…っ♥♥」
はぁ～っ♥
ドクン♥
ドクン♥

ムニュ
ムニュ
ムニュ
茜「んん…っ♥♥Kのチンポ…あっつぅ…っ♥♥こりゃ相当だねてんっ♥
ちゃんと扱いて…すぐ楽にさせてやんなきゃあ♥」
K「うぁ…っ！はぁ…っ！」
茜「声出しても…平気なようにしといたからね…、我慢しないで…遠慮なく
言いな…っ♥♥ねーちゃん気持ちいいって♥」

茜「(うはぁ～っ、すっごいオチンチン膨らんでるぅ～っ♥こりゃ今にも破裂しちゃいそう…っ♥それにヤケドしそうなくらい熱い…っ♥)」
K「はぁっ、はぁっ……んぐっ」
茜「んん～？Kってばおっぱい超ガン見してんじゃ～ん♥いいよっ、ちゃんと見てなっ♥ねー ちゃんが思い切りチンポ扱くところさっ♥」
ぐにゅ
ぐにゅ

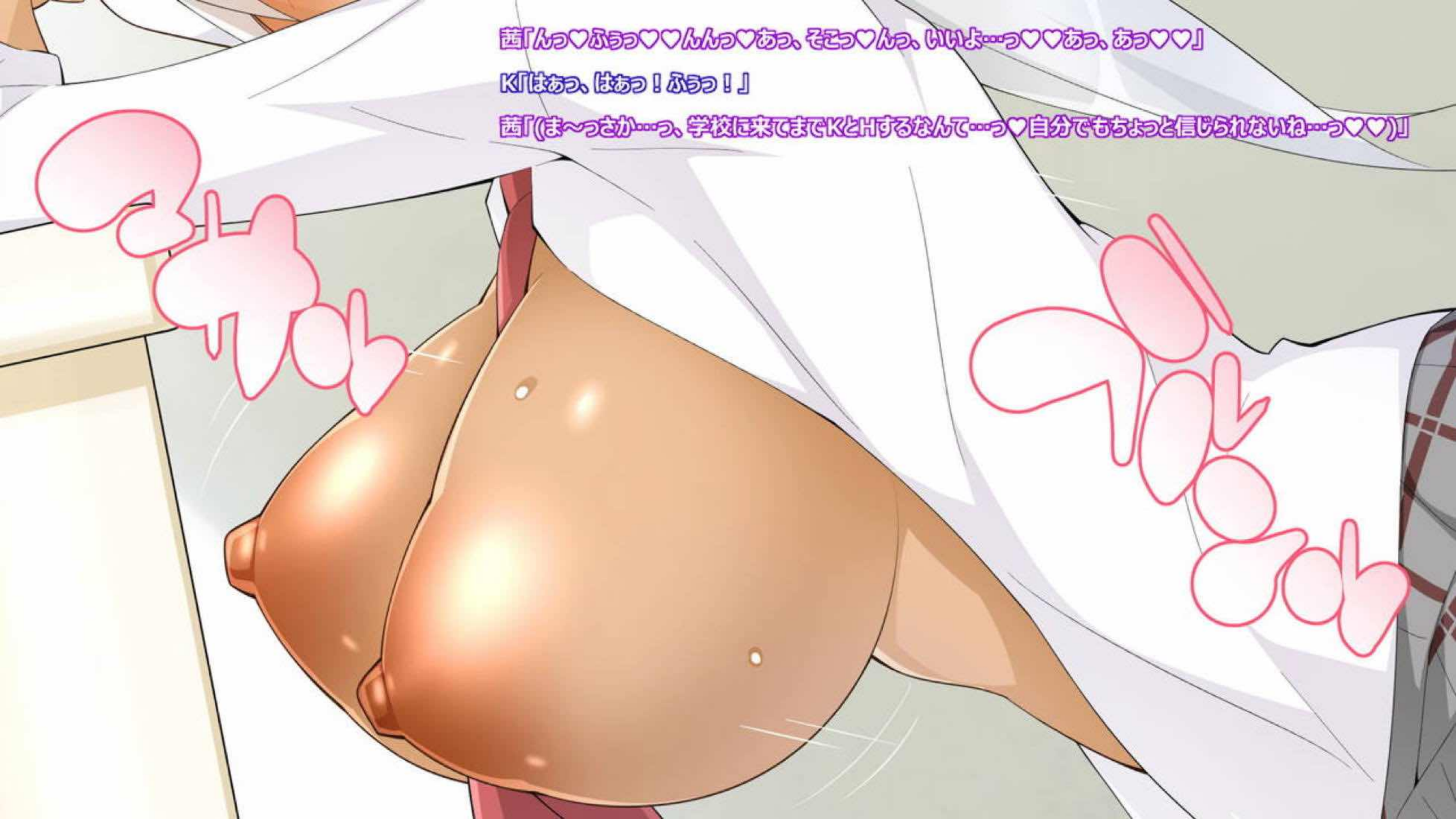
茜「おっぱい越しでも…んっ♥Kのオチンチンがパンパンに張ってるのがわかるよ…っ♥♥凄いね…こんなになっちゃうんだ♥」
茜「よっ、んんっ♥しょっと♥♥こうやって根元から先っぽまでしっかり包んで…っ♥♥左右からがっちり挟むっ♥♥んで…っ、出来るだけ大きくっ、上下に扱くっ♥♥すると…っ♥ほらっ♥♥」
K「うぉおっ！うはぁ…っ！」
茜「ほ～ら…っ、良い声が出たぁ…♥あははっ♥♥」
ぱんぱん
ずぽずぽ

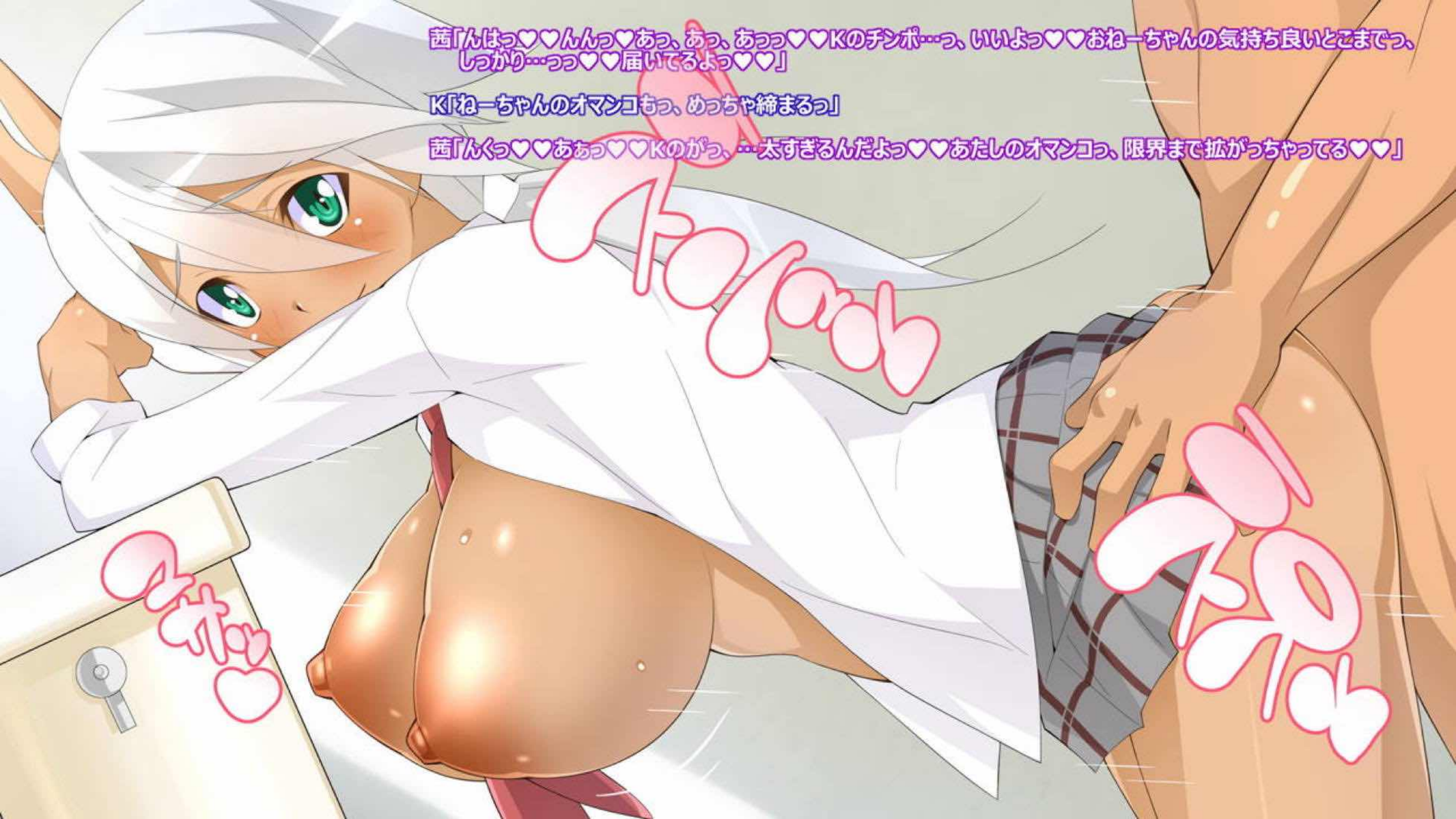

茜「今頃真琴やなおちゃんは真面目に勉強してるっていうのに…っ♥♥
トイレであたしにパイズリされて…幸せ者だね、Kは…っ♥♥」
K「うん…っ、俺もそう思う」
茜「ふふっ、Kのそういう素直なとこ、おねーちゃんも好きだよ…っ♥
んしょっと♥♥」
ぱいぱい
ぱいぱい
ぱいぱい

K「ふぅっ、ふぅ…っ！そろそろ…やばいかも」
茜「いいよ…思いっきり射精しちゃいな…っ♥♥溜めに溜めたKの濃厚ザーメンっ、遠慮しないで全部ぶちまけちゃえっ♥♥」
茜「そりゃっ、イけっ♥♥あたしのおっぱいに挟まれたまま射精しちゃえっ♥♥」
ずりゅっ
ずりゅっ
ずりゅっ

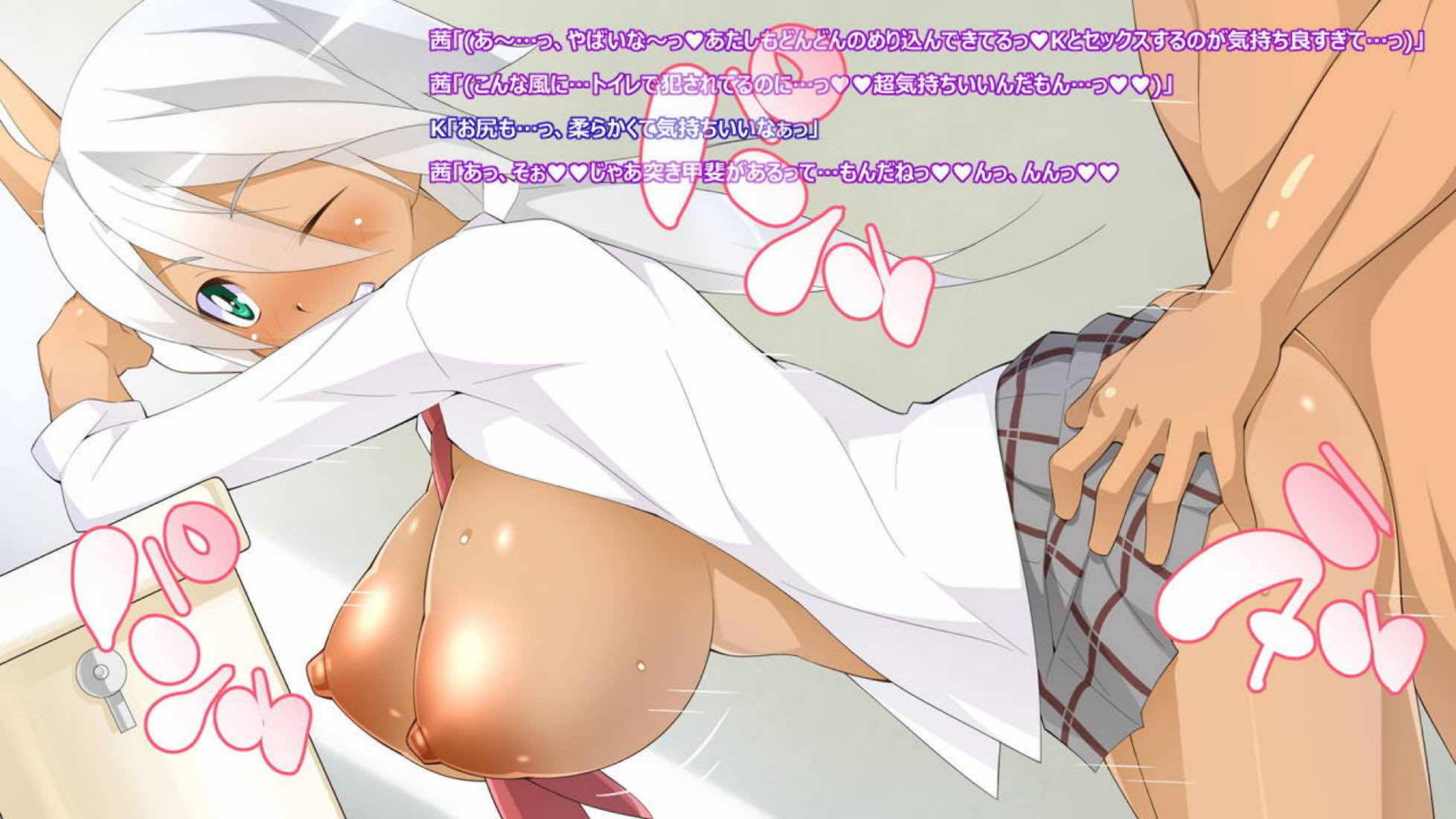
茜「ひゃうっっっ♥♥ちょっっっ♥♥すごっっっ♥♥水鉄砲みたいっっっ♥♥
おちんちんが、おっぱいの中で爆発してるっっっ♥♥♥」
K「ぐっ！うぅ…っ！！あぁ…っ！！」
茜「ちょ…っ♥♥ホントにどれだけ射精るのっ♥♥信じられないっ♥♥」
どぴゅっ！
びゅるっ！
びゅるっ！

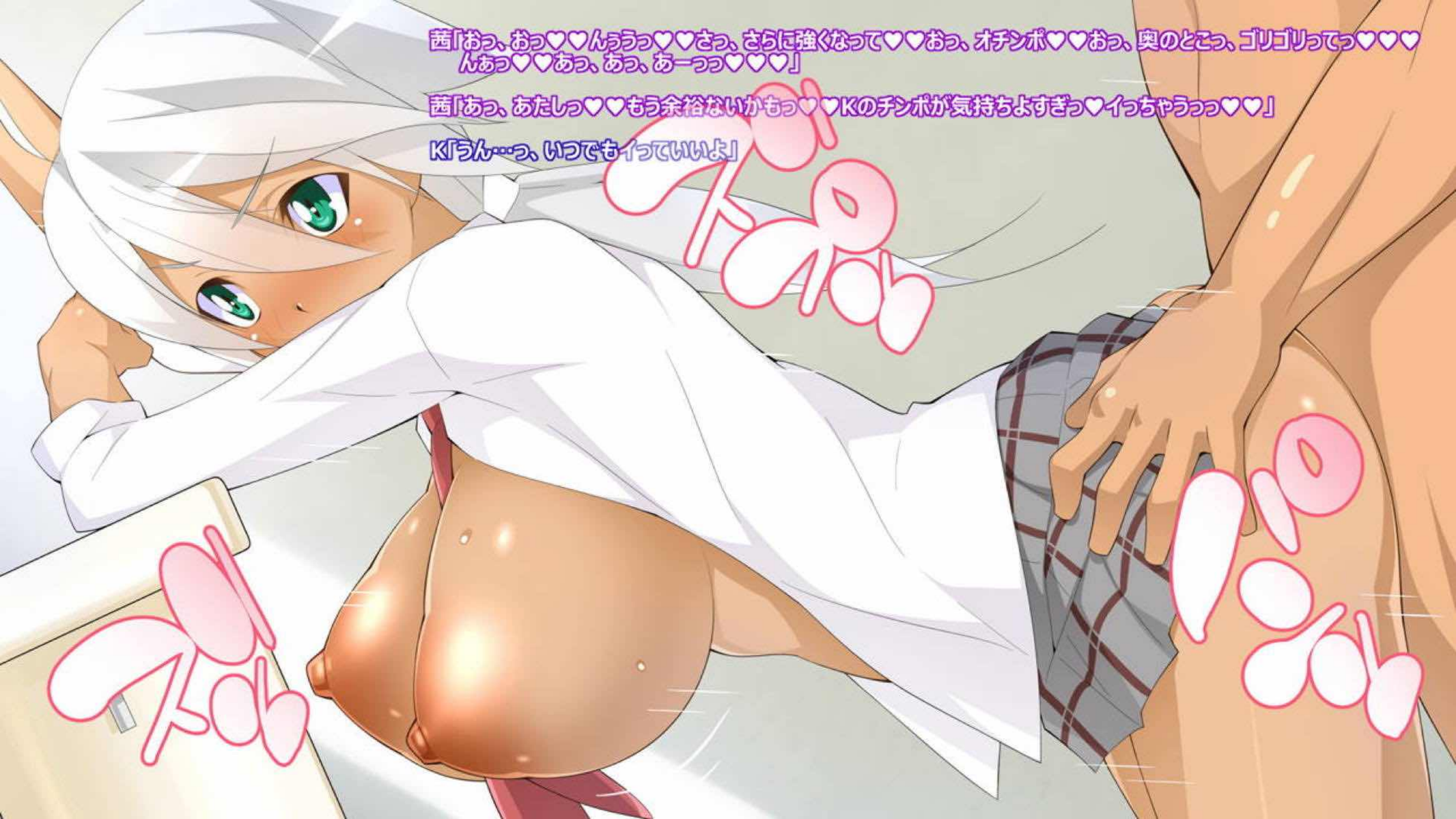
茜「んふふ～…っ、いっぱい射精たねえ～っっ♥♥あははっ♥♥真琴の制服なのに、汚しちゃってどうしよっ♥♥洗って匂い落ちるのかな～、これ♥♥♥」
K「はぁ…っ、はぁ…っ、ねーちゃん…ありがと」
茜「いえいえ、どういたしまして～っ♥♥それより…まだまだ全然射精し足りないっしょ？♥♥本番はこれから…ねっ？♥」
どくっ
どくどくっ


茜「んっ♥ふぅっ♥♥んんっ♥あっ、そこっ♥んっ、いいよ…っ♥♥あっ、あっ♥♥」
K「はあっ、はあっ！ふぅっ！」
茜「(ま～っさか…っ、学校に来てまでKとHするなんて…っ♥自分でもちょっと信じられないね…っ♥♥)」
ぷるぷる
ぷるぷる

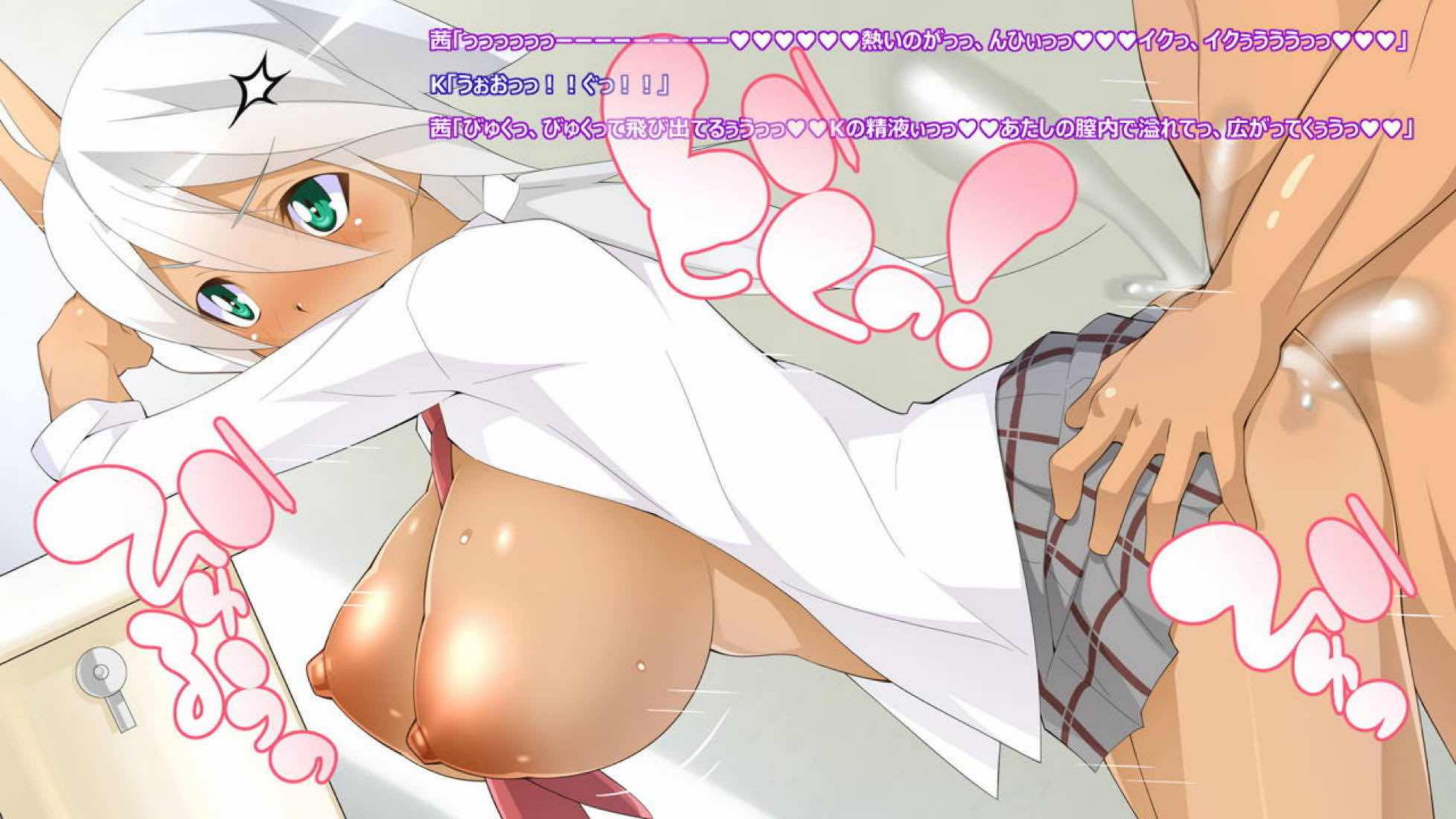

茜「んはっ♥♥んんっ♥あっ、あっ、あっっ♥♥Kのチンポ…っ、いいよっ♥♥おねーちゃんの気持ち良いとこまでっ、しっかり…っっ♥♥届いてるよっ♥♥」
K「ねーちゃんのオマンコもっ、めっちゃ締まるっ」
茜「んくっ♥♥あぁっ♥♥Kのがっ、…太すぎるんだよっ♥♥あたしのオマンコっ、限界まで拡がっちゃってる♥♥」
ぐちゅぐちゅ
ぬぷぬぷ
ずぽっ♥

K「ふうっ！ふうっ！気持ちいい…っ！」
茜「そろそろっ、授業に戻らないとっ♥♥いい加減っ、んひっ♥♥怪しまれるかもよ～っ♥んっ♥♥んあっ♥」
K「今更…っ、それは無理っしょ！」
茜「んふふっ、だよね～…っ♥あっ、あっ♥♥」
ぱぷぱぷ
ぱぷぱぷ
ぱぷぱぷ

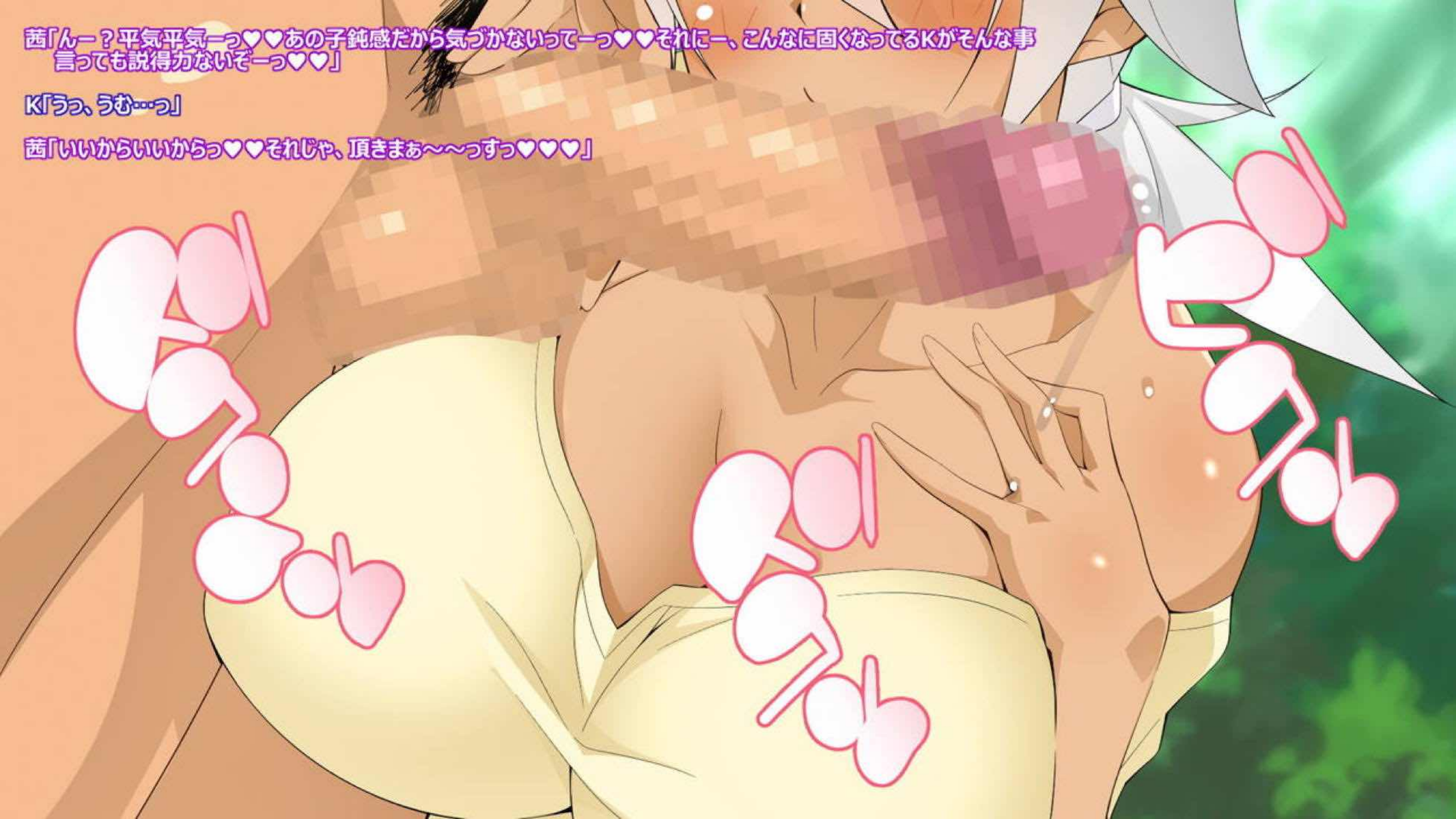

茜「(あ～…っ、やばいな～っ♥あたしもどんどんのめり込んできてるっ♥Kとセックスするのが気持ち良すぎて…っ)」
茜「(こんな風に…トイレで犯されてるのに…っ♥♥超気持ちいいんだもん…っ♥♥)」
K「お尻も…っ、柔らかくて気持ちいいなぁっ」
茜「あっ、そぉ♥♥じゃあ突き甲斐があるって…もんだねっ♥♥んっ、んんっ♥♥


茜「おっ、おっ♥♥んぅうっ♥♥さっ、さらに強くなって♥♥おっ、オチンポ♥♥おっ、奥のとこっ、ゴリゴリってっ♥♥♥
んあっ♥♥あっ、あっ、あーっっ♥♥♥」
茜「あっ、あたしっ♥♥もう余裕ないかもっ♥♥Kのチンポが気持ちよすぎっ♥イっちゃうっっ♥♥」
K「うん…っ、いつでもイっていいよ」
ぱんぱん
ぱんぱん

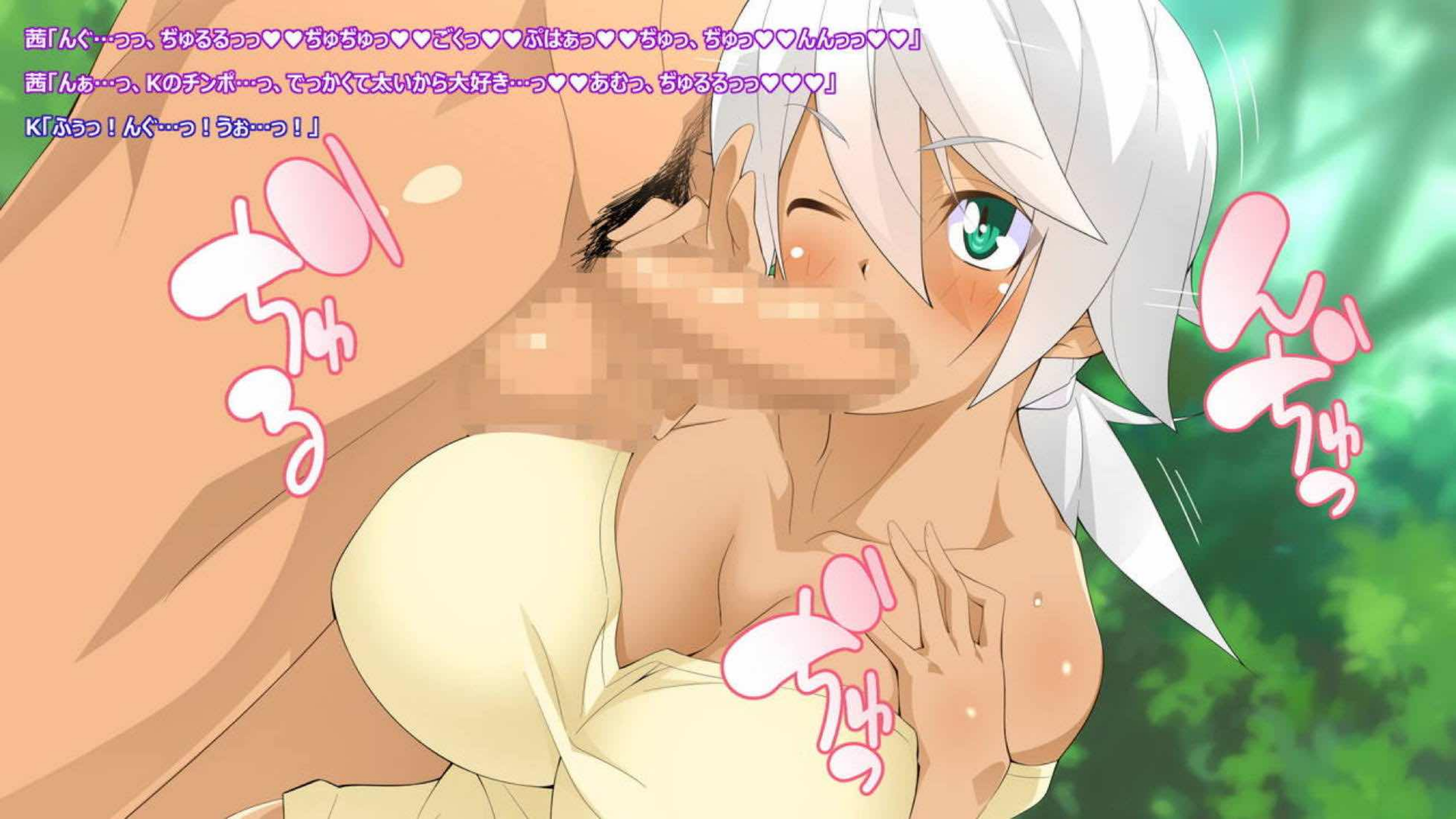
茜「あっ、あっ♥♥ダメダメっ、Kも一緒にっ♥♥んんっ♥あぁっ、イクっ、イクぅっっ♥♥」
K「あぁっ、俺も…っ！ねーちゃん射精る…っ！」
茜「はぁっ、はぁっ♥♥きてっ、きてぇっ♥♥♥お姉ちゃんのお腹ン中にっ、Kのザーメンっ♥♥流し込んでぇっ♥♥」
ぱぁぁ
ぱぁぁ
ぱぁぁ

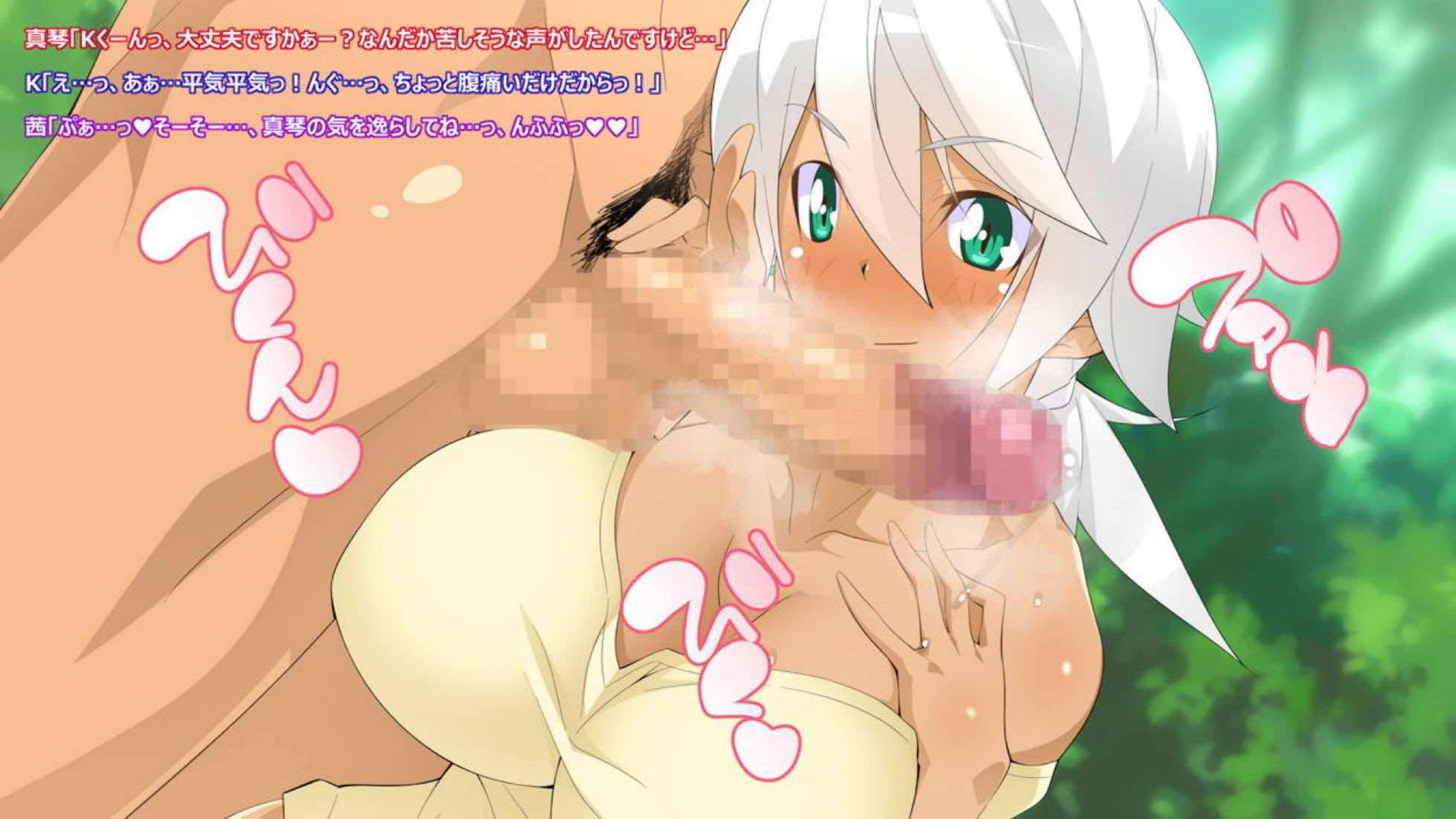

茜「っっっっっっっ――――――――――――♥♥♥♥♥♥熱いのがっっ、んひいっっ♥♥♥イクっ、イクぅうううっっ♥♥♥」
K「うぉおっっ！！ぐっ！！」
茜「びゅくっ、びゅくって飛び出てるぅうっっ♥♥Kの精液いっっ♥♥あたしの膣内で溢れてっ、広がってくううっ♥♥」
ぶしゅっ！
ぶしゅっ！
ぶしゅっ！

K「はぁ～…っ！ねーちゃんありがと…っ、学校まで…来てくれて」
茜「はぁ…っ、はぁ…っ♥♥なーに言ってんのKっ♥♥最初に約束してあげたでしょー、いつでもどこでも好きなだけHさせてあげるって♥♥だから…っ、これからもアテにしていいよーっ♥♥」
K「うん…ねーちゃん…好きだ…っ」
はぁ～っ♥
はぁ～っ♥
ぴちゅ…っ♥

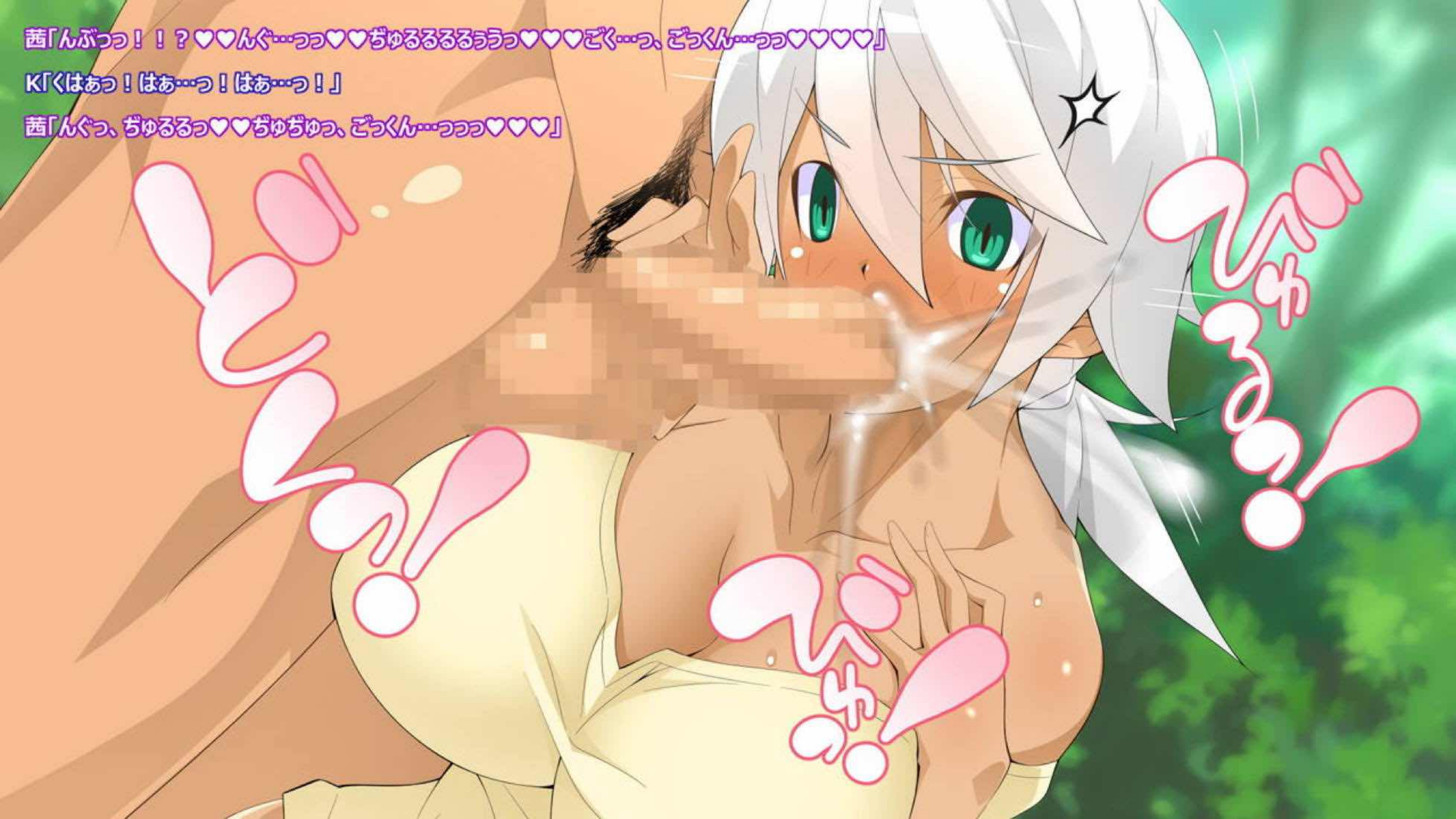

茜「んー？平気平気ーっ♥♥あの子鈍感だから気づかないってーっ♥♥それにー、こんなに固くなってるKがそんな事言っても説得力ないぞーっ♥♥」
K「うっ、うむ…っ」
茜「いいからいいからっ♥♥それじゃ、頂きまぁ～～っすっ♥♥♥」

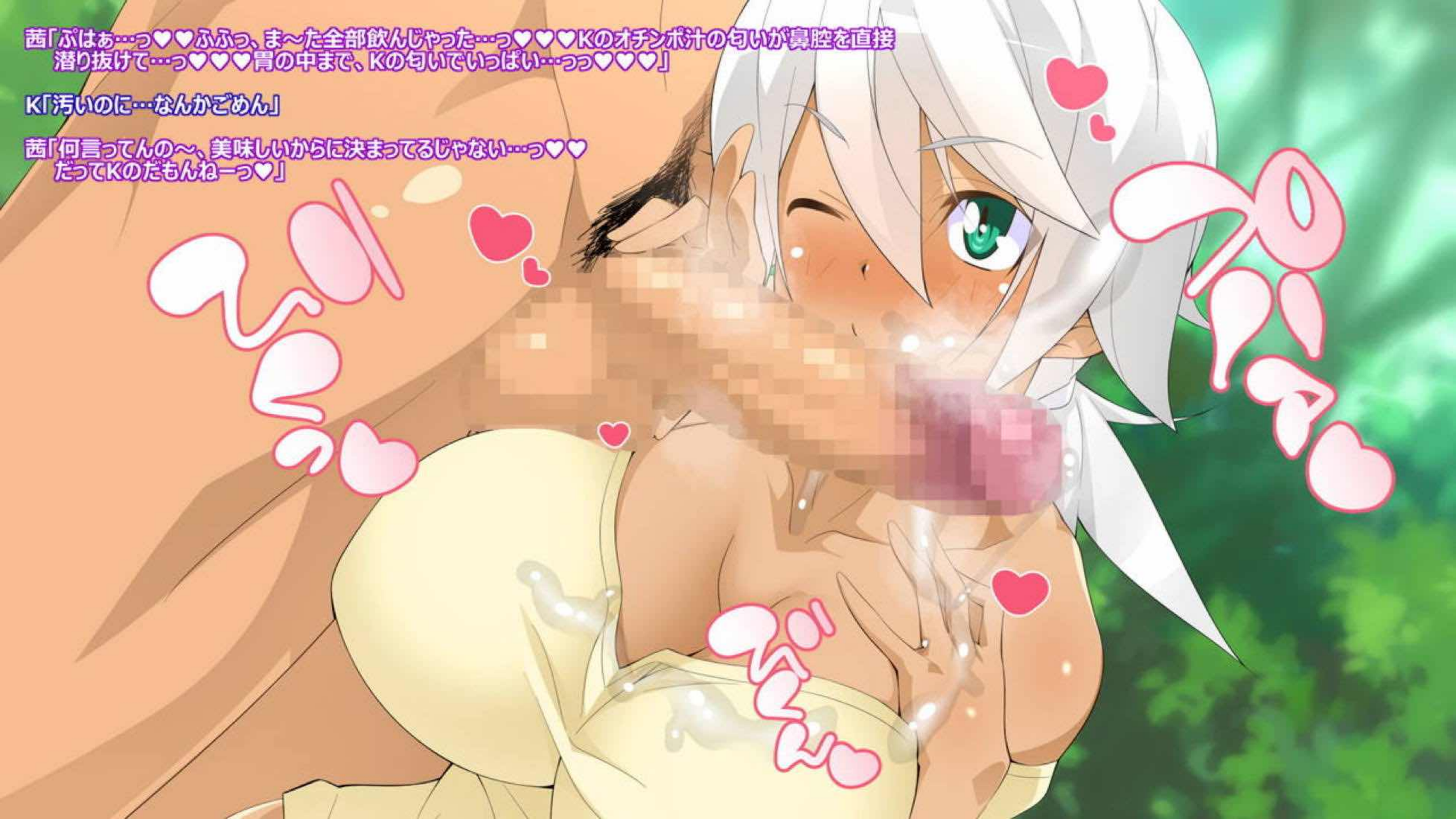
茜「ぢゅぱっ♥♥ぢゅぢゅっ♥♥んんっ♥♥ぢゅるるっ♥♥ぢゅっ♥♥ぢゅぢゅっっ♥♥」
K「うはぁ…っっ！！くぅ…っっ！！」
茜「ん…っ、汗のへいか…ひょっぱくなっへりゅ…っ♥♥おいひ～っ♥♥♥」
ちゅぱっ
ちゅるっ
ぢゅぱっ


茜「んぐ…っっ、ぢゅるるっっ♥♥ぢゅぢゅっ♥♥ごくっ♥♥ぷはぁっ♥♥ぢゅっ、ぢゅっ♥♥んんっっ♥♥」
茜「んぁ…っ、Kのチンポ…っ、でっかくて太いから大好き…っ♥♥あむっ、ぢゅるるっっ♥♥♥」
K「ふうっ！んぐ…っ！うぉ…っ！」


真琴「Kくーんっ、大丈夫ですかぁー？なんだか苦しそうな声がしたんですけど…」
K「え…っ、あぁ…平気平気っ！んぐ…っ、ちょっと腹痛いだけだからっ！」
茜「ぷぁ…っ♥そーそー…、真琴の気を逸らしてね…っ、んふふっ♥♥」
ぴくん♥
ぴくっ♥
ぷるぷる

茜「んっ、んんっ♥♥ぢゅるっ、ぢゅぱっ、ぢゅっ♥んぐっ♥♥」
K「あっ、あぁ…っ、もう…射精そう…っ♥♥」
茜「いひから…っ♥♥いふでもイひな…っ♥ふぇんぶ…っ、飲んだふぇる…っ♥♥」
ぢゅっ
ぢゅるっ
ぢゅっ


茜「んぶっっ！！？♥♥んぐ…っっ♥♥ぢゅるるるるぅうっ♥♥♥ごく…っ、ごっくん…っっ♥♥♥♥」
K「くはぁっ！はぁ…っ！はぁ…っ！」
茜「んぐっ、ぢゅるるっ♥♥ぢゅぢゅっ、ごっくん…っっっ♥♥♥」
どくん!!
べぢゃっ!
べぢゃる!!


茜「ぷはぁ…っ♥♥ふふっ、ま～た全部飲んじゃった…っ♥♥♥Kのオチンポ汁の匂いが鼻腔を直接
潜り抜けて…っ♥♥♥胃の中まで、Kの匂いでいっぱい…っっ♥♥♥」
K「汚いのに…なんかごめん」
茜「何言ってんの～、美味しいからに決まってるじゃない…っ♥♥
だってKのだもんねーっ♥」
ぷぴぷぴ♥
ぺろぺろっ♥
ぐぐぐん♥

ガシッ
ぐいっ
茜「ほ～らK～、よく見えるぅ？♥♥おねーちゃんのオマンコだよ～っ♥♥」
K「さっ、さすがにこれ以上はやばいんでは…」
茜「もぉ～、まーだわかってないの～、Kぇ～♥♥…だから、いいんじゃんっ♥♥♥」

ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
茜「こういうの…っ、めっちゃ燃えるっしょ？♥入れるなら、い・ま・の・う・ちっ♥♥うふふっ♥♥♥」
K「…ごくっ」
茜「ねっ、お姉ちゃんに全部任せていいから～…っ♥♥お願いっ、Kぇ♥♥いっぱい気持ちいい事しよっ♥♥」

ごりっ
ごりっ
ごりっ
ごりっ
茜「んぉおおうっっ♥♥♥んひっ♥♥いっ、いきなりすごっ♥♥チンポが一気にっ♥奥まで♥♥んぐっ、んんうっ♥♥」
K「オマンコの中…めちゃ濡れてるっ」
茜「Kのチンポが欲しくって、たまんな…っ、んぁあっっ♥♥…たまんないからだよぉっ♥♥あっ、あっ、あぁっ♥♥」

ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
茜「おっ、おっ、おぉっっ♥♥こんな…っ、青空の下で…っ♥♥んふふっ、Kとセックスしてる…っ♥♥
ホント…っ、自分でも信じられない…っ♥」
K「俺も…っ！」
茜「んっ、Kもそう思う…っ？♥だよね～…っ、んぁあっ♥♥あっ、あっ♥♥」

ボボボボ
ボボボボ
ボボボボ
K「声抑えないとやばいよ…っ」
茜「んんっ♥♥ふうっ、ふう～～っっ♥♥♥んん～～～っ♥♥Kのぶっといのが、膣内かき回すからっ♥♥♥」
茜「(すご…っ♥Kが体重乗せて思い切りねじ込んでくるっ♥こんなの…っ、声我慢出来るわけない…っ♥)」

ズボッ
ぐぽっ
ぐぽっ
茜「んんっ♥おふぅっ♥うぅっ♥♥ふっ、ふうっっ♥♥」
茜「(子供の腕くらいっ♥ぶっといオチンポっ♥あたしのオマンコをっ、どんどん拡張げてるっ♥Kのサイズぴったりになっちゃうっ♥♥K以外じゃもうっ、一生満足出来ないっ♥)」
K「やべ…っ、外でやんの…っ、超気持ちいいっ！」

ぐりぐりぐりぐり
ぐりぐりぐりぐり
K「ねっ、ねーちゃんっ！そろそろ…っ！」
茜「いいよっっ、膣内射精してっ♥♥お姉ちゃんの膣内にっ、Kのありったけのザーメンっ、
吐き出しちゃってっっ♥♥♥」
K「ああっ、イク…っ！」

びゅっ！
びゅるっ！
びゅるるっ！
茜「っっっっっっっっっ――――――――――――――――――――――♥♥♥♥♥♥イクッ、イックぅぅぅぅぅぅっっっっ♥♥♥♥♥」
K「ねーちゃん…っ！！うぅ…っっ！！」
茜「んぉおおっっ♥♥オマンコの中にっ、Kの精液っ、入ってくるぅぅぅっ♥真琴が一生懸命手入れした畑の中で…っ、
Kに膣内射精されてるぅぅっっ♥♥」

どぴゅっ♥
ごぷっ♥
ごぷっ♥
茜「はぁ～…っ、はぁ～…っっ♥♥えへへぇ～っ、ま～たKにいっぱい射精されちゃったぁ～…っ♥
この快感…っ♥♥やめらんないわぁ～…っっ♥♥♥」
K「真琴にさすがに悪いかも…」
茜「気にする事ないって、Kぇ～…っ♥♥♥お互いたっぷり気持ちよくなれたんだからぁ…っっ♥♥♥
ああ～…っ、幸せぇ…っ♥♥♥」

茜「どれどれ～…ん～もう固くなってるっ♥♥さすがだねK～、ホントは期待してたんでしょ♥♥」
K「おっぱいが…背中に当たる…っ」
茜「こんなに大きくしちゃって…っ、しょうがないなぁ…っ♥♥おねーちゃんがすぐに楽にしてあげる…っ♥♥」
ムニュッ
ムニュッ

茜「はぁ…っ、Kの馬チンポ…っ♥♥こんなのがあたしの膣内に何回も入ってるなんて…っ♥♥ドキドキしちゃう…っ♥♥」
茜「手で直に握るとKのおちんちん、どくんどくん脈打ってるのが凄く伝わってくるよ～…っ♥♥Hしたくてたまらないっていってるみたい♥♥」
K「はぁっ！うう…っ！」
ぷにぷに
ぷにぷに
ぷにぷに

茜「ほらっ、ここが気持ち良いんでしょ…っ♥♥大丈夫、Kはそのまま
リラックスしてぇ…っ、射精する事だけに集中すればいいからっ♥♥」
K「うぉお…っ！」
茜「他人の手で扱かれるのって気持ちいいっしょ？♥♥Kの弱いとこは
もう全部わかってんだからね～っ♥♥」
ぬぷぬぷ
ぬるぬる
ぬるぬる

西「こんなに身体もオチンチンも大きくなっちゃって…っ、ふふっ♥♥
男の子って成長が早いよね…っ♥♥」
西「んしょっ、んんっ♥そろそろっ、射精したくなってきたんじゃない―？♥♥
おちんちんがぷくーって膨れてきてるよっ♥♥」
K「うっ、うん…そろそろ…限界っ」
ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる

茜「んふっ♥♥それじゃ、いっぱい射精しちゃおうね～っ♥♥大丈夫っ、気持ちよ～くイかせてあげるから…っ♥♥さぁいくよっ♥♥ラストスパートぉっ♥♥うりゃっ、おりゃっ♥♥」
K「くっ！あっ、あぁっ！」
茜「イけっ♥♥盛大に射精しちゃえっ、Kぇっ♥♥♥」
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

K「ぐっ……うくっ!!」
茜「うぉおっっ♥♥おっ、おっ、射精る射精るぅっっ♥♥♥すごっ、こんな風に射精するんだぁっ♥♥♥♥」
茜「ほらほらっ、もっと吐き出してっ♥♥最後の一滴まで残らず全部射精しちゃえっ♥♥♥」
びゅるっ!
びゅっ!
びゅっ!

K「はぁ～…っ、ねーちゃんに…イかされた…っ」
茜「んふふ～っ♥♥♥こういうのも悪くないっしょ～っ♥ほら見て、Kぇっ♥あたしの手、Kの精液でもーべっとべとおっ♥♥♥洗ってもこりゃあ落ちないかも♥♥」
茜「それに、あんなに射精したのにまだ全然衰えない…っ♥♥♥ぞくぞくしちゃう…っ♥♥Kぇっ、もっと楽しもうよ…っ♥♥ねっ♥♥♥」
ぐちゅっ…♥
ぐぷぅ…♥
ぐちゅっ…♥

ずぶっ
ずぶっ
ずぶっ
茜「…って話っ、Kも…っ、まだ覚えてる…っ？♥♥んっ、んんっっ♥♥あっ、んぁあっ♥♥」
K「うん…あの時の光景…目に焼き付いてる」
茜「そんなKが今は逆にあたしを…っっ、あっ、あぅっ♥♥んんっ、あっ、あぁっ♥♥リードしちゃってんだもん…っ♥♥」

ぎゅっ♥
ぎゅっ♥
ぎゅっ♥
茜「あぁ…っ、いい…っっ♥♥Kとセックスするの…ホント好き…っ♥♥Kが魔男で…っ、本当に良かった…っ♥♥♥
こんな風に…っ♥♥一緒に気持ちよくなれるんだから…っっ♥♥」
K「ねーちゃん…っ、俺も」
茜「うん…っ、ありがと…っ、Kぇっ♥♥♥」

ぺろぺろ
ぺろぺろ
ぺろぺろ
茜「んひっ♥♥あっ、あっ、あっっ♥♥きゅっ、急に激しくっっ♥♥んひっ♥♥駄目ぇっ♥♥大きな声っ、出せないのにっ♥♥♥
抑えられないっっ♥♥止まんないぃっ♥♥♥」
K「ねーちゃん…好きっ！」
茜「Kぇっ♥♥あっ、あぁっ♥♥♥Kぇっ♥♥♥」

ぶるぶる
ぶるぶる
ぶるぶる
K「また射精すよ…っ！ねーちゃん…膣内射精してって言って」
茜「んぅうっ♥♥あっ、あっ♥♥んぁあっっ♥♥♥オマンコ射精してっ♥♥お姉ちゃんの膣内にっ、あたしの子宮にいっ、
Kの赤ちゃんミルクっ、チンポザーメンっ♥♥ありったけ注いでぇっ♥♥♥」
K「はぁっ、はぁっ！！うぅっ！」

ぶるんっ
ぶるんっ
ぶるるっ!
ぶるるっ!!
茜「っっっっっっっ――――――――――――――――――♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥イックぅぅぅぅぅぅぅぅっっっっ♥♥♥♥♥♥♥」
K「ぐっっ！！うぅっ！」
茜「んひっ♥♥♥んぅぅっっっ♥♥♥あぁあっっっっ♥♥♥♥♥」

はぁ～
ぐちゅっ…♥
茜「はぁ～…っっ♥♥はぁ～…っっ♥♥♥Kぇ…っ、大好きだよ…っっ♥♥♥」
K「ねーちゃん…っっ、ありがと……っ！」
茜「もぉ一生…っ、Kぇから離れないんだから…っっ♥♥♥Kのためなら…っ、なんだってしてあげる…っ♥♥♥どんな事だって…っ♥♥
お姉ちゃんの身体は…っ、これからもずっとK専用だよ…っっ♥♥♥」

犬養「確かこ～やってえ～っ♥…ほら出来たぁっ♥♥うふふっ、K君のおちんちんがぁ～っ、お姉さんの大きくて柔らかぁ～いおっぱいの中にぃ♥♥はいっちゃってるのっ、わかるぅ？♥♥」
K「うあぁ…っ、あったかくて…気持ちいいス」
犬養「あはっ、そーでしょーっ♥♥それじゃあさっそく…おちんちん扱いてあげるからね～っ♥♥」
ぷにぷにっ♥
ぷにぷにっ♥
ぷにぷにっ♥

K「うぁっ、はっ、あぁ…っ！」
犬養「K君ったらもぉ♥さっきから可愛らしい声なんか出しちゃって…っ♥♥
お姉さんのパイズリ…っ、気持ちいいんだぁっ♥♥」
K「もっ…もちろん…っ！」
ぱぱぱぱ
ぱぱぱぱ
ぱぱぱぱ

犬養「わぁーいっ♥♥嬉しいっ♥♥もっと頑張ってご奉仕しちゃおーっ♥♥
うりゃっ、そりゃあっ♥♥
K「うおおっっっ!く…っ!あぁあ…っっ!!」
犬養「K君のおちんちんが私のおっぱいの中で…っ♥♥あぁっ、夢みたい…っ♥
こんな逞しくて…っ、素敵なおちんちん持ったK君が魔男なんてぇっ♥♥」
ぷるぷる
ぶるぶる
ぶるぶる

K「(酔っ払った犬養さん、まるでね―ちゃんみたいだ…っ!)」
犬養「ずるいわよ茜えっ♥こんな良い男独り占めとか許さないんだからぁっ♥♥
K君もぉっ、犬養お姉さんの事、これからはちゃ~んと覚えてね~っ♥♥
パイズリとか、好きなだけしてあげるんだからっ♥♥」
K「はっ、はい…っっ!うく…っっ!すげぇ乳圧…っっ!!茜ね―ちゃんに
負けないくらい…っ!!」
ぱぷっ
ぱぷっ
ぱぷっ

犬養「ふっふーっ♥♥当然でしょーっ、胸の大きさには自信あんだからっ♥♥もぉイキそう?♥おちんちんからあの白いのがっ、びゅびゅってしちゃいそう?♥♥いつでも好きな時に発射してねっ♥♥」
K「で…っ、でも…それじゃあ犬養さんが…っ」
犬養「汚れても気にしないってえっ♥♥むしろっ、たぁ〜っくさん射精してっ♥K君のチンポ汁で、お姉さんをいっぱい汚してえっ♥♥」
ズボッ
ズボッ
ズボッ

K「ぐ…っっ!!!あぁっっ!!」
犬養「きゃっっ♥♥♥んあぁっ♥♥♥すごっ♥♥こっ、これが生の射精っ♥♥おっぱいの中でっ、K君のおちんちんがびくびくって脈打ってるのがわかるっっ♥♥♥」
K「はぁっ!はぁっ!!うぁあっ!!」
びゅっ!
びゅるっ!
どくっ!

犬養「すっごぉ～～い…っ、この量…そしてこのむせかえるような精液臭…っ♥
とても、並の人間の射精とは比べ物にならないわぁ…っ♥♥これで
膣内射精なんかされたら…はぁ～～っ♥♥♥」
K「はぁ…っ、はぁ…っ、犬養さんのパイズリが…凄い気持ちよかったんで…っ」
犬養「んふふっ♥ありがとーっ、K君っ♥♥私も、K君がこんなにいっぱい
射精してくれてっ、嬉しかったよ～っ♥♥」
ドクッ♥
はぁー♥
どくん♥

犬養「んはぁ……っっっ♥♥奥まで…入っちゃったぁ…っっ♥♥K君わかる…っ？あなたのおちんちんが私の膣内に…っ、すっぽり入っちゃってるんだよ…っ♥♥」
K「わかります…っ、あぁ…っ、やべ…っ、もう気持ち良い…っ！」
犬養「うふふ…っ♥♥気持ちよくなるのはまだまだこれから～だよっ♥♥それじゃ…、動くね…っ♥♥」
ずぶ♥
ぶすぶす…♥

犬養「んっ、んんっ、あぁっ♥♥はぁっ、はぁっ♥♥ふっ、ふうっ♥♥んくっ、んん…っっ♥♥」
K「はぁっ、はぁっ、おっぱいが…目の前でブルンブルン…っ！」
犬養「あぁっ、これ凄いっ♥♥ホントヤバいやつだわ…っ♥オチンポ太すぎて…っ、膣内が拡がっちゃう…っ♥♥」
ズボッ
ズボッ
ズボッ

犬養「あっ、あぁっ♥♥K君のチンポっ♥♥腰を動かす度にっ、奥にっ♥♥当たるぅ…っ♥こんなの…っ、
絶対他じゃ味わえない…っ♥♥魔男チンポっ、デカすぎぃ…っっ♥♥」
犬養「ふぅっ♥んんっ♥♥あぁっ♥♥こんなのっ、病み付きになるに決まってんじゃん…っっ♥♥」
K「うぅ…っ！腰使い…半端ない…っ！！」
ぶるぶる
ぶるぶる

犬養「ねぇっ♥♥これからも絶対私とHしよっ♥♥K君といっぱい気持ち良い事したいっ♥♥んぁあっ♥♥
パイズリでも膣内射精でもなんでもいいから…っ♥♥私とセックスしてぇっ♥♥」
K「はあっ、はぁっ！じゃっ、じゃあ…このまま…っ！」
犬養「もっちろんっっ♥♥遠慮しないでっ、魔男K君がたっぷり溜めた精液っ、いっぱい、いっぱい私の膣内に
吐き出してっ♥♥責任はこっちが取るからぁっ♥♥ねっ、ねっ♥♥」
ぬぷぷ
ぐぷぷ
ぐぷぷ

犬養「あぁっ、イクイクっ♥♥私もイっちゃうっっ♥♥6歳も年下のK君チンポにイかされてっ、思い切り絶頂迎えちゃうっ♥♥」
K「あっ、あぁっ！！射精るっ！！」
犬養「きてきてぇっ♥♥頂戴っ、膣内に精液っ、射精してぇっ♥♥♥イクっ、イっくぅぅっっっ♥♥♥」
ビクッ
ビクッ
ビクッ

犬養「ひぅぅっっ♥♥♥んぉおおっっっ♥♥♥あっ、あっ、あーっっ♥♥♥♥♥♥」
犬養「(膣内でっ、膣内で精液がはじけてるっっ♥♥熱いザーメンがっ、どくどくって膣内で噴き出して溢れてくるぅぅっっっ♥♥♥私っ、完全に下半身で考えちゃってるぅぅっっっ♥♥♥)」
K「ぐ…っっ！！うぅ…っっ！！はぁっ、はぁっ！！」
びゅっ！
びゅるっ！
びゅ！

犬養「はぁ…っ、ふぅ…っ、はぁ～～…っっ♥♥♥K君の精液…っ、たっくさん…膣内に射精たよ…っっ♥♥
君のまだ固いままのおちんちんが…びくびくってザーメンの残りを吐き出してるの…っ、わかるぅ…っ♥♥」
K「犬養さんの膣内が気持ちよくて…っ、自分でも信じられないくらい…射精ました…っ、はあっ、はあっ」
犬養「んん～っっ、ありがと～っ♥♥私のオマンコでちゃんと気持ちよくなってくれて…っ、私も嬉しいよ～っ♥♥
また次も絶対Hしよっ♥♥予定空けとくからさ～っ、ねっ♥♥」
はあ～っ
ちゅ…っ

プルンッ
プルプル
K「うぉ……っ」
犬養「え…っ、やだちょっと…っ、もしかして私の身体、そんなにおかしい…っ！？」
K「いや…むしろ逆…すっごいスタイル良くて…漫画みたい」

あっ、ぷにぷに
犬養「そうなんだ…あっ、ありがと…K君。褒めてくれて…」
K「(肌も透き通るくらい白くて綺麗だ…、色白美人って犬養さんみたいな人の事を言うんだな)」
K「でも」

あせっ
あせっ
K「犬養さん、ひょっとして…ローブの下っていつも裸？」
犬養「えっっ！？いやっ、あのこれはその…っっ！！つい…っ、習慣になっちゃってて…ほらっ、私…っ、普段犬だから…」
K「あぁ～、なるほど…暑いんスね」

犬養「あと抜け毛も大変で…だから決してっ！巷に出没するっていう、変態趣味の人じゃないからっ！」
K「わかってますよ(実際に見た事ありそうな反応だ)」
犬養「あぁいうのとは絶対違うんだから…うん、違う…」

ドキドキ
犬養「あぁ～…っ、どうしよ…っ、すっごく緊張するぅ…っっ♥♥今更凄く恥ずかしくなってきたぁ～っ♥♥」
K「どうします？やっぱり止める？」
犬養「えっ！？♥…うっ、う～ん…っ♥♥じゃっ、じゃあ…いいよ…K君の好きにして…っ♥♥」
犬養「せっかくここまできたんだから…気持ちよくならないと…損しちゃうもんね♥♥」

ぷるっ
ぷるぷる
ぷるぷる
K「すごっ…。あらためて見ても…でかい…！やっぱ自慢するだけのことはある」
犬養「あっ、あれは酔ったはずみで言っちゃっただけだから…っ、ホントは大きいのがいつも恥ずかしくって…っ♥
だっ、だからあまりマジマジと見ないで…っ♥♥」
K「ん～…でもとても綺麗だから…」

トプン
トプン
チュプル
犬養「そっ、そんな事…ないわよ…っ♥♥ただ無駄におっきいだけ…だもの…っ♥♥K君は優しいから…っ♥♥」
K「それじゃあ…その…触っちゃっても…いい？」
犬養「うっ、うん……、べっ、別に…好きにして…いいわよ…っ♥♥(あぁ～っ、ドキドキするぅ～っ！♥♥)」

ぎゅぎゅ
ぎゅぎゅ
犬養「ふぅ…っ、んんっっ♥♥やぁっ♥♥そっ、そんな風に揉んじゃ…っっ♥♥んっ、んんっ♥♥」
K「うっわ、柔らか…っ！肌がスベスベで…モチモチ…、その上…ずっしり重い…っ！」
犬養「んん…っ、あっ…♥はあっ、はぁっ♥♥あふっ♥んぁっ♥♥」

ギュッ
ムニュ
ムニュ
犬養「(やば…っ♥超気持ちいい…っ♥♥なっ、なんで…っ！？♥♥K君におっぱい揉まれてるだけなのに…っ♥
身体が敏感に反応しちゃって…っ♥♥)」
K「犬養さんの声、めちゃエロい」
犬養「ちっ、違…っ♥♥これはただ反射的に…っっ♥♥」

ぢゅっ
ぢゅるるっ
ぢゅぱっ
K「あむっ、ぢゅるるっ！！ぢゅぱっ！ぢゅぢゅっっ！」
犬養「っっっっっ――――――！！？♥♥♥♥だっ、駄目えっ、けっ、K君っ、そんな吸っちゃ…っ、んぁあっっ♥♥♥」
K「ぢゅぢゅっ！ぢゅぱっ！」
犬養「（あたしのおっぱい、吸われてるぅっ♥♥けっ、K君がまるで赤ちゃんみたいに乳首に吸い付いて…っ♥♥）」

あっ
はぁっ
んっ
犬養「あっ、あっ、あぁっっ♥♥んひっ♥♥んっ、んんっっ♥♥駄目っ、ちっ、乳首噛んじゃ…っ♥んんっっっっっっ♥♥」
K「ぢゅぱっ！ぢゅぢゅっ！！れろれろ…っ！…うまっ」
犬養「やっ、あぁっっ♥♥はあっ、はあっ♥♥んぁああっっ♥♥♥」

犬養「はぁ～…っ♥♥はぁ～…っ♥(どっ、どうしよ…おっぱい舐られただけで…イキそうになっちゃったぁ…っ♥♥)」
K「犬養さん…その…俺もうたまんないんで…出来れば…」
犬養「ん…っ？♥♥あぁ～、そういう事ねっ♥♥もちろん…いいわよ…っ♥でも経験ないから…あんまり期待はしないでねっ♥」

犬養「ん…っ、んしょ…っ♥えと…どっ、どうかな…これで…」
K「大丈夫ですよ…十分気持ちいいです…」
犬養「そっ、そぉ…っ、良かったぁ…ごめんね、あんまりよくわかんなくて…っ♥♥」
K「(犬養さん、酔ってる時とは大違いだな…なんか初々しいっていうか…でも…そこがまたすごく可愛い)」

ぷるっ♥
ぷるっ♥
ぷるっ♥
犬養「んふふ…っ、これ…結構楽でいいね♥あたしがやらなくてもK君が動いてくれるから…へぇ～…、
パイズリってこういうのもあるんだぁ…」
犬養「K君の固くなったオチンチンが、あたしのおっぱいの中を出たり入ったりして…」
K「犬養さんくらい大きくないと、こういうのって出来ないらしいス」

犬養「うん…っ、ありがとっ♥でもなかなか…考えたものよね、パイズリって♥おっぱいだけで…オチンチンを気持ちよく出来ちゃえるんだからさ…っ♥」
犬養「きっと最初に考えた人もK君みたいにおっぱいバカだったんじゃないかな？♥なんてね、ふふ♥♥」
K「否定は…しないッスね…多分そうだと思いますよ」
犬養「認めちゃうんだ、そこ」

ぷっぷっ
ぱんぱん
ぱんぱん
犬養「あっ、お…っ、だんだん…動きが強くなってきたね…♥K君、気持ちいい？」
K「えぇ…そりゃ…犬養さんのおっぱいを犯してる…様なものだし」
犬養「あぁ、そっかぁ～♥♥そう考えれば確かにそうよね…っ、K君のギンギンオチンポに…あたしのおっぱい…
好きにされちゃってる…っ♥」

犬養「(なんだろ…そうう考えたらなんだかあたしも凄く変な気持ちになってきちゃう…っ♥ただK君のオチンチンを
胸の谷間に擦りつけられてるだけなのに…っ♥)」
犬養「(これもK君が魔男なせい…？それとも…っ♥♥)」
犬養「うん…多分きっと両方ね…っ♥だってK君…こんなに必死になっちゃって…可愛いんだものっ♥♥」

ぐちゅっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ
犬養「あっ、んんっ、ふっ♥♥さっきよりもっと激しくなった…っっ♥♥んっ、はぁっ♥♥」
K「はぁっ、はぁっ、ああ…っっ！もうイキそう…っっ！！このまま射精して…いいですかっ！」
犬養「いいよ…っ、思い切りぶちまけて…っ♥♥K君の熱い迸りを…っっ♥♥あっつあつドロドロのチンポザーメンっ、私にぶっかけて頂戴っ♥♥」

びゅびゅ！
びゅるっ！
びゅっ！
K「ぐ…っっ、うぅ…っ！！」
犬養「ひゃあっっ♥♥♥いっぱ、いっぱい射精たぁっっ♥♥♥すごっ、んんっっ♥♥♥♥飛び跳ねてるっっ♥♥♥」
犬養「おっぱいの中でおちんちんが何度もびくびくってぇっ♥♥♥ほらほらっ、最後の一滴まで…っっ♥♥
吐き出してぇっ♥♥♥」

ぐちゃ♥
べとべ～っ♥
はぁ～♥
犬養「あっは～…っっ♥♥もぉベットベトぉ…っっ♥♥背中にまで精液が垂れちゃって…っっ♥♥」
K「すっ、すいません…勢いありすぎて…汚しちゃいました」
犬養「いいのよ～、これくらいっ♥♥それよりも…っ、私のおっぱいでこんなに気持ちよくなってくれたんだから…っ♥
ありがと…っ、K君…っ♥♥よければまた次も使ってあげてね…っ♥♥」

茜「もしもし？電波悪いのかな、よく聞こえないんだけどー？家に…なんだってー？」
犬養「…K君っ、このままじゃ…っ、あっ、茜に気づかれちゃう…っ♥♥」
K「…うん、わかっててやってる。バレないように頑張って」
犬養「ええ～～っっ♥♥もっ、もぉ～～…っ♥♥」
ポロ
ポロ
ポロ

犬養「いっ、今ね…けっ、K君が家に来てて…」
茜「あ～、そうなんだ～。で、Kと二人で何してんの？」
犬養「んひっ♥♥えっ、えと…勉強おっ♥♥んっ、んんっ♥♥ふうっ、ふう…っ♥♥」
K「(う…っ、さっきから犬養さんの膣内がぎゅーぎゅー締まって気持ちがいい…っ)」

犬養「んぁあっ♥♥あっ、あっ♥んぐっ♥だっ、駄目っっ♥♥こっ、声…っ、抑えられない…っ♥
聞こえるっ、聞こえちゃうっ♥♥」
茜「もしもーし、犬養ってばー。家にいるんなら今からそっちにいこっか？」
犬養「駄目っ、絶対駄目えっ♥♥こっ、こんなはしたないとこ…っ、見られたくない…からぁっ♥♥」
ぐにゅっ
ぐにゅっ
ぐにゅっ

K「犬養さん、すっげー可愛い…もっと突くね」
犬養「んひっ♥♥あっ、あっ、あーーっ♥♥ズンズン来るうっ♥♥奥までっ、オチンポ届くうっっっ♥♥
固い先っぽがゴリゴリって敏感なとこ叩くのぉっっ♥♥」
K「多分…もうこれ絶対ねーちゃんに聞こえてるな…」
犬養「けっ、K君が動くからよぉっ♥♥」
ぐいぐい
ぐぽぐぽ

犬養「あっ、あっ、駄目っっ♥♥イクっ、このままイクっっ♥」
茜「えっ、犬養の方が来んの？ケニアまで？」
犬養「イクイクっっ♥♥あぁあ…っっっ♥♥♥」
K「あぁ…俺も…射精るっ！」
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

犬養「んぁあああ――――っっっっ♥♥♥イクイクッ、イックゥウウウッッ♥♥♥♥♥♥」
K「ぐっ、すげー締め付け…っっ！！最後の一滴まで…っ、全部…流し込んで…っっ！！！」
犬養「熱いのっ、いっぱい流れ込んでくるぅっ♥オマンコの中にいっ♥あっ、あっ、あぁあっっ♥♥」
びゅっ！
どぴゅ！
どぴゅ！

茜「…あははっ♥♥犬養の気持ち良さそうな声がこっちまではっきり聞こえたよーっ♥どう、犬養？
いつもよりもっと興奮出来たっしょー？」
K「…やっぱり。ねーちゃん、最初から気づいてたな」
犬養「はぁ～…っ、はぁ～…っ♥♥あっ、茜ぇ…っ、おっ、覚えておきなさいよぉ…っっ♥♥♥」
はぁ～っ♥
はぁ～っ♥
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥

茜「じゃーーーんっ、お待たせーっ♥この日のためにわざわざ新調した水着で～っす♥どう、K？似合ってるかなー？♥♥」
K「うわーっ、…すげ。グラドル顔負けだな」
犬養「うっ、うぅ～～、やっぱり男の人に身体見られるの…慣れてないからちょっと恥ずかしいわ♥」

茜「なーに言ってんの犬養♥あたし達は、Kに喜んでもらうためにわざわざここにいるんだよー♥なんのために、際どいビキニにしたと思ってんのー♥もっと胸張って♥♥」

犬養「まぁ…それはそうなんだけど…っ♥あ～っ、でもやっぱり…っっ♥♥」

K「犬養さんのそういうところにグッとくるな」

ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
K「(てか…これ、水着…か？乳首もスケスケじゃん…)」

犬養「(見てる見てる～～っっ、K君こっち超見てる～～っ♥♥うぅ～～っ♥)」

K「あの…これ普通の水着じゃないスよね？」

犬養「えっ！？あ…うんっ♥茜がさ…その…っ、合う水着が見つからないっていうもんだから…
私が海外のサイトで探して…それで…」

K「なるほど…それでエロ水着をって事か」

犬養「わっ、私は最後まで反対したからねっ♥自分の意思じゃないからっ♥茜がどーしてもって
言って聞かなくて…しかたなく」

K「(その割にはバッチリ合ってるよなぁ…)」

茜「えぇ～っ、最後は犬養も結構ノリ気だったじゃん～っ♥全部あたしのせいにするぅ～？♥
でも買って絶対良かったじゃん、ねぇK?」
K「うん、ねーちゃんもエロくってすげーやばい」
茜「あははっ♥♥あーりがとっ♥高かったけど選んだ甲斐があったよ～っ♥」

茜「それじゃー今日はいつもよりうんとお姉ちゃんがサービスしたげよ～っ♥犬養も一緒にねっ♥」

犬養「えっ！？ちょ、茜っ！」

茜「今更何戸惑ってんの～っ、ここに来る前からそんな事承知の上っしょ～っ♥♥」

あっ…！…
犬養「わっ、私は別に…楽しく遊んでお酒飲めればって…」
茜「あははっ、そんなカッコして全然説得力ないよ～♥」
犬養「あっ、く…っっ♥♥」

ぷるん
ぷるぷる
ぷるぷる
茜「Kもわかるっしょ～？♥見てよこの犬養のエロボディ～っ♥♥こんな可愛い顔してすっごいんだから腹立つよねー♥♥」
犬養「そっ、それはあんたがこんなエロ水着にするから…っ♥」
茜「せっかくそんな身体に生まれたんだから、有効活用しなくっちゃ♥ねぇ、K♥」
K「うん、ごもっともだ」

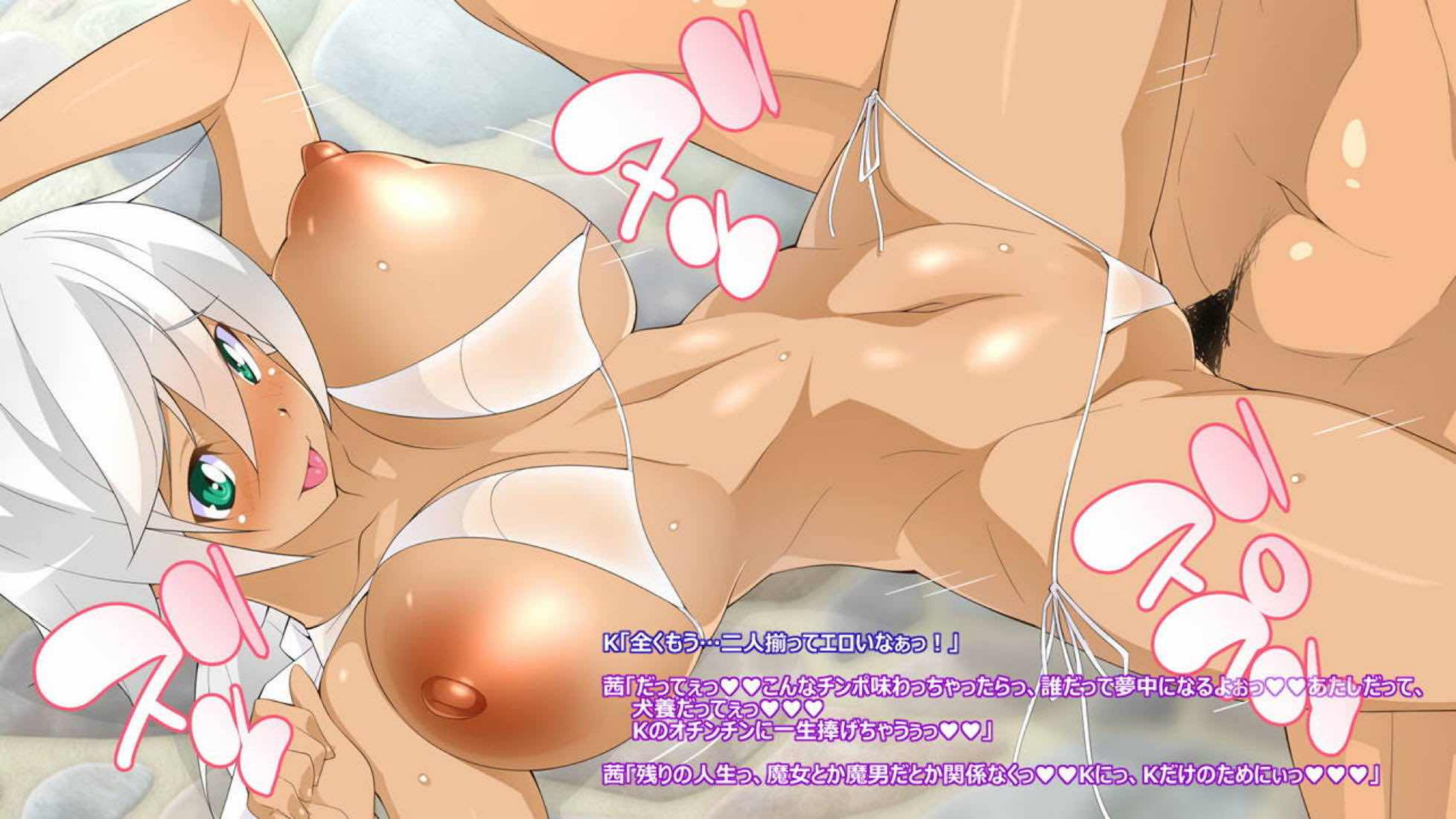
ぷるぷる
ぷるぷる
犬養「そっ、そうなのかなぁ…♥♥そうよね…♥♥うん…ちょっと自信出てきた…っ♥♥せっかく着替えたんだもん♥
よ～しっ、楽しまなくちゃ損よね♥」
茜「そそっ、今日は3人で思い切り楽しんじゃおーっ♥♥」
3人「おーーっっ！！」

ずぽっ
ずぽっ
ずぽっ
茜「んほっ♥♥んんっ、あっ、あぁっ♥♥いいよっ、Kぇっ♥♥あひっ♥♥お姉ちゃんっ、
気持ちいいよっ♥♥んっ、んんっっ♥♥」
K「ねーちゃんのマンコ…っ、締まるぅ…っ！」
犬養「んくっ、んくっ♪ぷは～～っ♥♥おほーっ、K君最初からいきなりがっつくねーっ♥」

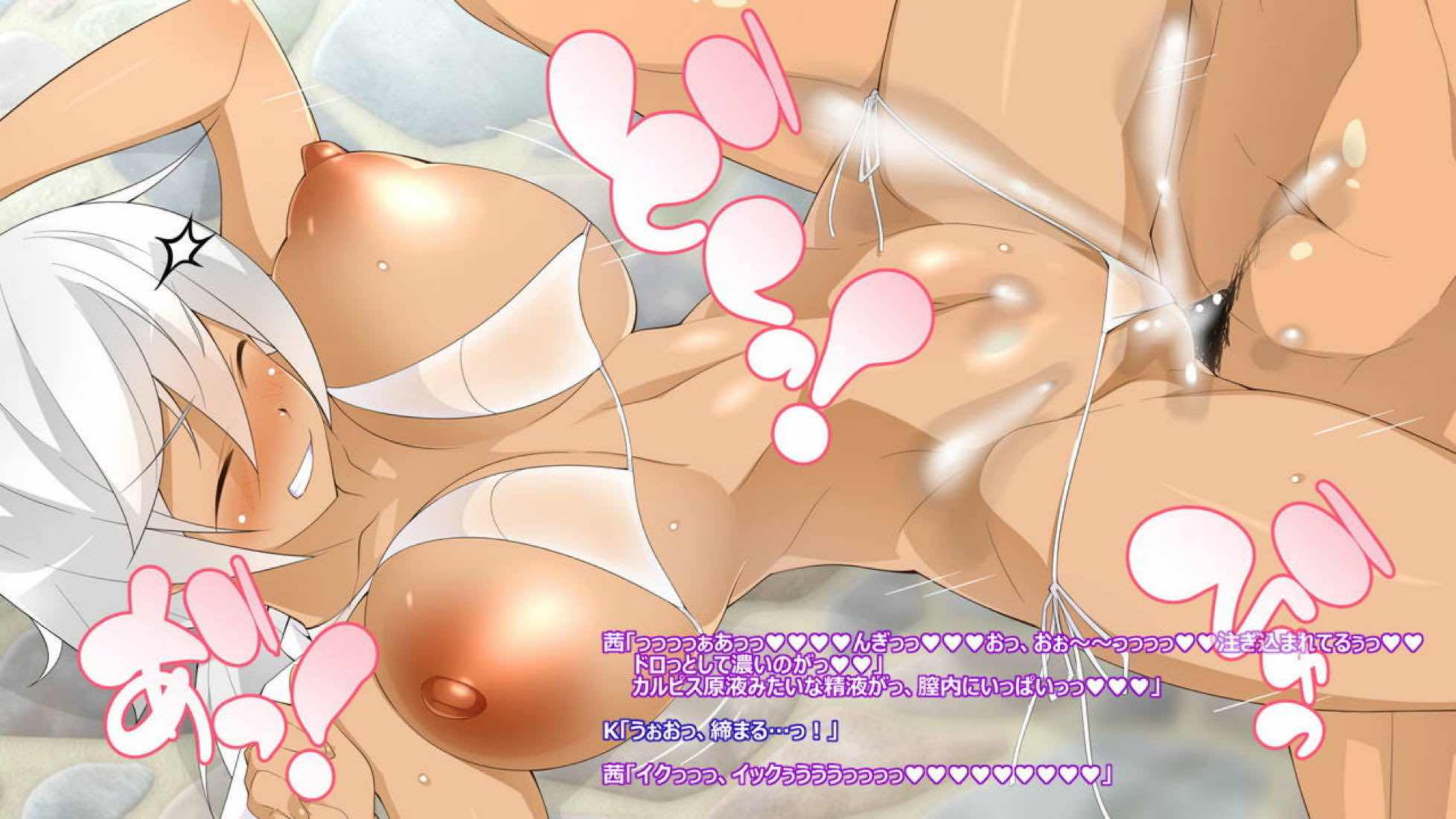
ぐぃぐぃ
ぐぃぐぃ
K「バカンス楽しむんじゃ…っ、なかったっけ？」
茜「んひっ♥♥わかってないなぁ、Kぇ～っ♥♥これが大人のバカンスってヤツよ～っ♥♥
んっ、んっ、んぁあっ♥♥♥
こんな誰もいないとこで男女3人とか…っ、やる事決まってんじゃんっっ♥♥」
K「そういうもんなの…っ、ぐっ！」

ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
茜「にしてもっ♥んっ、ふうっ♥♥パワーあるよねぇっ♥腰ごとっ♥持っていかれちゃってるっ♥
あたしっ、まるでっ♥♥んんっ♥Kに食べられてるみたいっ♥」
K「ふうっ、ふうっ！」
茜「(…ってもう聞こえてないかっ♥んふふっ♥♥腰動かすことで頭がいっぱいになっちゃって♥)」

ずぷっ
ずぷぷっ
ずぷぷぷっ
茜「んぉおっっ♥♥奥っ、ズンズン来るぅっっ♥♥おっ、おぉ～～っっ♥♥これいいっ♥♥
いいよっ、Kぇっ♥♥Kの固くて
太いオチンチンがっ、あたしのっっ♥♥一番気持ち良いとこ叩くよぉっ♥♥」
茜「あっ、あっ、あーっっ♥♥Kぇチンポいいっ♥♥最高ぉっっ♥♥♥」
犬養「あぁーんっ、茜だけすっごく気持ち良さそうにしてずるーい♥K君っ、次は絶対私ねっ♥♥」


ズボッ
ズボッ
ズボッ
K「全くもう…二人揃ってエロいなぁっ！」
茜「だってぇっ♥♥こんなチンポ味わっちゃったらっ、誰だって夢中になるよぉっ♥♥あたしだって、
犬養だってぇっ♥♥♥
Kのオチンチンに一生捧げちゃうぅっ♥♥」
茜「残りの人生っ、魔女とか魔男だとか関係なくっ♥♥Kにっ、Kだけのためにぃっ♥♥♥」

ぶるっ
ぶるんっ
ぶるんっ
K「ねーちゃんっっ！イク…っ、犬養さんの見てる前でっ」
茜「きてっ、きてぇっ♥♥お姉ちゃんがK専用の性処理オマンコって事っ、犬養にも証明してあげてぇっ♥♥イクイクっ、あたしもイクぅぅぅっっっ♥♥♥」
K「あぁ…っ！射精るっっ！」


どぴゅ!!
びゅるっ
あっ!
茜「っっっっっああっっ♥♥♥♥んぎっっ♥♥♥おっ、おぉ～～っっっっ♥♥注ぎ込まれてるうっ♥♥
ドロっとして濃いのがっ♥♥」
カルピス原液みたいな精液がっ、膣内にいっぱいっっ♥♥♥」
K「うぉおっ、締まる…っ！」
茜「イクっっっ、イックぅうううっっっっっ♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

ぐぷっ
ぐぷっ
ぐぷっ
ぐぷっ
K「はぁ～…っ、はぁ～…っ」
茜「んぁ…っ、はぁ～……っっ♥♥あたしもよ…っ、Kぇ…っっ♥♥♥あんたの射精した精液が
お腹いっぱいに満たされて…っ、
すっごく満足してる…っ♥♥幸せって感じるんだよ…っ♥♥」
茜「んぁ～…っ、Kぇ～…っ、大好き…っ♥犬養が終わったらまた次はあたしとやろーね…っ♥♥」

ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
犬養「んん……っっ、はっ、入ってくるぅ～…っっっ♥♥けっ、K君の…っ、オチンポぉ…っっっ♥♥♥見えるぅ…っ？
私の膣内に入ってくの、K君から見えるぅ…っ？♥♥」
K「うん…めっちゃ見てる」
犬養「んく……っっ♥♥あぁっっ♥♥私の気持ちいいとこ…っ、K君のオチンポで全部埋められちゃう…っっ♥♥♥」

ぷるぷるぷるぷる
ぷるぷる
犬養「(あ～、ダメわたし…っ♥また流されちゃってる…っ♥もうオマンコの事しか考えられなくなってきてる…っ♥こんなはずじゃなかったんだけどな～、私の人生設計…っ♥♥でも…っ♥)」
K「犬飼さんのおっぱいっ、プルンプルンしてる」
犬養「えっ！あ…っ、うっ、うんっ♥(あぁ～っ、もうドキドキが止まらないっ♥体中が…乳首の先まで敏感になってるみたいっ♥)」

ズンッ
ズンッ
犬養「じゃっ、じゃあ…っ、また…私が動くね…っ♥♥ん…っ、んん…っっ♥♥すご…っ♥こんな大くて固いのが…っ、私の膣内に…っっ、んああっ♥♥」
犬養「まるでっ、何か別の生き物か何か入れられてるみたいな…っ♥♥びくびくって動いてっ、うねうねして…っ♥♥んんっっ♥♥」
茜「あははっ、それわかるわー♥♥まるで生きてるみたいに、膣内で蠢いてくるんだよねー♥♥」

ズンズン
ズンズン
犬養「こっ、こんなチンポでガチピストンとかされたら…っっ♥♥正気でいられる自信、絶対無いよ…っ♥ずるいよっ、
K君ってば…っ、可愛い顔して…っ、こんな凶悪な兵器…っ、隠し持ってるんだもの…っ♥♥」
K「それは犬養さんだって同じ…っ、めちゃエロいもん」
犬養「そっ、そんな事言って…っっ♥♥んんっっ♥♥気持ちいい…っっ♥♥」

ズンズン
ぐりぐり
ぐりぐり
犬養「茜の言ってる事っ、凄くわかる…っ♥入れてみて…っ、初めてわかる…っ♥♥これまでの世界が…っ、
全部ひっくり返っちゃうくらいの…っっ♥♥んおおっっ♥♥革命的快感っっ♥♥♥」
犬養「はあっ、はあっ♥♥駄目っ、腰もう止まんない…っっ♥♥下半身が勝手にK君チンポ求めてるっ♥♥
身体があなたのオチンチン求めてるっっ♥♥あっ、あっ、あぁっっ♥♥♥」

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
K「はあっ、はあっ、犬養さん…っ！そろそろっ」
犬養「K君イクのねっ、いいよっ♥♥このまま射精してっ♥♥私の中にっ♥♥遠慮なんかいいからっ♥♥
あなたのとびっきり濃くて熱い精液っ♥♥思いきりぶちまけてぇっ♥♥」
犬養「私もイクっ、んんっっ♥♥イクっ、イクぅっっ♥♥♥K君チンポに膣内射精されてっ、オマンコイクぅうっっ♥♥」

びゅるぅ！
どぴゅ！！
びゅぐ！
犬養「ッッッッッッ――――――――――――――♥♥♥♥♥♥♥♥んぉっっ、おぉ――――っっっ♥♥♥♥♥♥♥」
K「はぁっ、はぁっ！！」
犬養「射精てるっっ、射精てるぅううっっ♥♥♥K君のオチンポミルクっっ♥♥♥マグマみたいに熱くてヤケドしそうな精液がっ、私の子宮にっ♥♥赤ちゃん作るお部屋に注ぎ込まれてるぅうっっ♥♥♥」

ビクビク
ビクビク
ビクビク
犬養「んっっっ…、はぁ～～～～っっ♥♥はぁ…っ、はぁ…っ♥♥♥K君…っ、いっぱい射精して…くれたね…っ♥♥
私のオマンコで気持ちよくなってくれて…っ、本当にありがとう…っっ♥♥♥」
K「俺だって…気持ちよかったス」
犬養「んふふ…っ、嬉しい…っ♥あぁもう…っ、私もますますK君に夢中になっちゃいそう…っ♥♥」

K「うっ、うぉお…っっ!!こっ、これは…っっ!!」
犬養「あははっ♥見てよ茜っ、あのK君がこんなに反応するなんて初めて見たっ♥♥」
茜「でしょー♥♥K、あんたなら絶対喜ぶと思ったよー♥♥おっぱい大好き人間だもんねー、Kは♥♥」
ぷるぷる♥
ぷにぷに♥
ぎゅっ♥

茜「二人がかりでこーやって左右から…っ、おっぱいでしっかりオチンチンを挟みこんでえ…っ♥♥」
犬養「息を合わせて…っ、タイミング良く扱く…っとぉ♥♥バカだねー、これ最初に思いついた人ーっ♥♥きっとK君みたいにおっぱいの事しか頭にない人だったんだろうねー♥♥」
K「俺は別にそこまで…っ、うぁあっっ！！」
ぱふぱふ
ぱふぱふ
ぱふぱふ

犬養「今更否定したって遅いよー、K君っ♥♥キミがかなり相当なおっぱい中毒者だって事っ♥とっくにバレてるんだから♥♥ねぇ、茜っ♥♥」
茜「そーそー、だから遠慮しないで今はおっぱいの事にだけ集中して、気持ちよ～くなってよKえ♥♥最後までしっかり扱いてあげるからさぁ♥♥」
犬養「んしょっ、んしょっ♥♥K君だけの、私達の特別サービスっ♥♥たっぷり受け取って頂戴っ♥♥」
ぷるぷる
ぷるぷる

茜「んっ、よっ、ほっ♥♥犬養もっ、中々上手い…じゃんっ♥♥Kのチンポっ、逃がさないようにしっかりコントロールしよっ♥♥」
犬養「茜こそっ♥♥かなり手馴れてるじゃないの…っ♥♥今までどれだけK君にサービスして…っ、あげたのよっ♥♥んんっ♥♥」
茜「えへへっ♥♥数えた事ないけど…っ♥♥んっ♥♥一日5回くらいは挟んであげてる…っ、かなっ♥♥」
ずぷっ
ぬぷっ
ぬぷぬぷっ

茜「んっ♥♥あっ♥♥こっ、これ…っ、乳首が擦れて…っ♥犬養の乳首が…っ、コリコリして…っ♥♥んんっ♥♥」
犬養「あっ、あんただって…っ♥やだ…っ♥変な気持ちになるじゃない…っ♥今はK君が優先…っ、でしょっ♥♥」
K「はぁっ！はぁっ！もっ、もう…っ！！」
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥

茜「あいよーっ、わかってるって♥♥さっきからKのオチンチンが射精したくてうずうずしてんでしょっ♥♥♥このまま盛大にイっちゃいなーっ♥♥」
犬養「好きなタイミングで射精していいよーっ♥♥K君のくっさいオチンポザーメンっ、あたし達で全部受け止めてあげるっ♥♥」
二人「ほらほらっ、イっちゃえ――っ♥♥♥」
ビュルルルル
ビュルルルル
ビュルルルル

犬養「ひゃうっっっ♥♥♥♥あっ、あっ、射精たっ、射精たあっっ♥あはっ♥♥すごっ♥♥♥♥」
茜「あたし達のおっぱいの中でっ、Kのオチンチンが爆発してるみたいっ♥♥射精しながらっ、暴れまわってるっっ♥♥」
K「うぁあっっ!!はぁっ、はぁっ!!」
どぴゅ!
どぴゅ!
どぴゅ!

茜「いや～～っ、いっぱい射精たねぇ～っ、Kぇっ♥ほら見てぇっ♥♥
あたしも犬養も…っ、あんたの精液でべっとべとだよっ♥♥」
犬養「またおっぱいの中でびくびくって痙攣してるよ…っ、K君の
おちんちん…っ♥♥よっぽど気持ちよかったんだね…っ♥♥」
K「最高過ぎる…っ」
ドクッ♥
どちゅ…♥
ズタァ…♥

犬養「んっく…、んん～…っ♥」
茜「ふっふ～んっ♥」
K「ふむ…」
犬養「あの…K君、その…じっと見つめてないで…早くなんとかしてよ」
ぺろぺろ
ぺろぺろ
ぺろぺろ

K「いや…もうちょっとこのまま見ていたいなーって。こんな絵面、二度と拝めないかも」
茜「あれれ犬養～、もしかして素面に戻っちゃった～？んふふっ、今更恥ずかしくなってるの？」
犬養「なっ、なんていうかさ…こうやって二人してK君にお尻向けて並んでるのって…まるで催促してるみたいでちょっと…恥ずかしくって♡」

茜「にゃはははっ♥みたい～じゃなくて実際に今やってるじゃん、ねぇK♥犬養だってさ、まだまだしたいっしょ？だったら思い切りパーッとやっちゃえば♥」
犬養「あっ、あんたはいつだって…」
K「…んじゃ、もう入れるよ。犬養さん先いくね」

犬養「えっ、あっ、ちょっっ！！？」
犬養「っっっっ～～～～♥♥♥んひっ♥♥んおっ♥♥♥んんっ♥♥あっ、あっ、あぁぁっ♥♥♥」
茜「うは～～っ、今すっごい声出たよ～っ♥犬養エロすぎ～っ♥♥」
犬養「きゅっ、急にK君がっ、んいっ♥♥いっ、入れてくるからっ♥♥んぁあっ♥♥あっ♥」
ズプッ
パンパン
パンパン

K「犬養さんの膣内、締まる…っ！」
犬養「Kっ、K君のオチンポが…っ、ふっ、太すぎるからぁっ♥♥んんっ、あっ♥おっ、奥に当たるうっ♥♥」
茜「んふふ…っ、犬養のエロ顔…っ、こんな間近で見られるなんてっ♥」
犬養「んぁあっ♥♥あっ、茜っ♥♥あんたっ、悪趣味すぎっ♥♥んぉおっっ♥♥」
ずぽっ♥
ずぽっ♥
ずぽっ♥

犬養「んっ、おぉっ♥♥あっ、あっ、あぁうっっ♥♥」
茜「ほらほら～♥気持ち良さそうな声出てるよー、犬養っ♥Kのオチンポでゴツゴツぶっ叩かれてるんだよね…っ♥
いっちばん敏感な膣内の奥をさーっ♥♥」
犬養「う…っ、るっさい♥♥んぉっ♥♥それどころじゃ…ないからぁっ♥♥んっ、んんっ♥♥チンポ気持ちいいっ♥♥」
K「ねーちゃんの隣で犬養さん犯すの…っ、超気持ちいい…っ！」
パンパン
ずぽっ
ずぽっ

茜「ねっ、興奮するでしょーっ♥あたしもこうやって見てるだけでぞくぞくしてきちゃう…っ♥♥」
犬養「はぁーっ、はぁーっ♥♥んっ、あっ、あっ、あぁっっ♥♥♥」
茜「…ふふっ、もう言葉にもならないみたいだねっ♥♥そろそろイキそうかなーっ？♥♥」
ズンッ♥
ズンッ♥
ぱんぱん♥

犬養「イクっ、イクぅっっ♥♥♥茜ぇっ♥♥あたしっ、イっちゃうぅっ♥♥♥K君のオチンポでっ、
あんたの目の前でっ、膣内射精されてイっちゃうぅっっ♥♥♥」
茜「いいよー、派手にイっちゃいなっ♥♥あたしがちゃんと見ててあげるからっ♥♥♥」
K「あぁっ、射精るっっ！！！犬養さんの膣内にっっ！！」

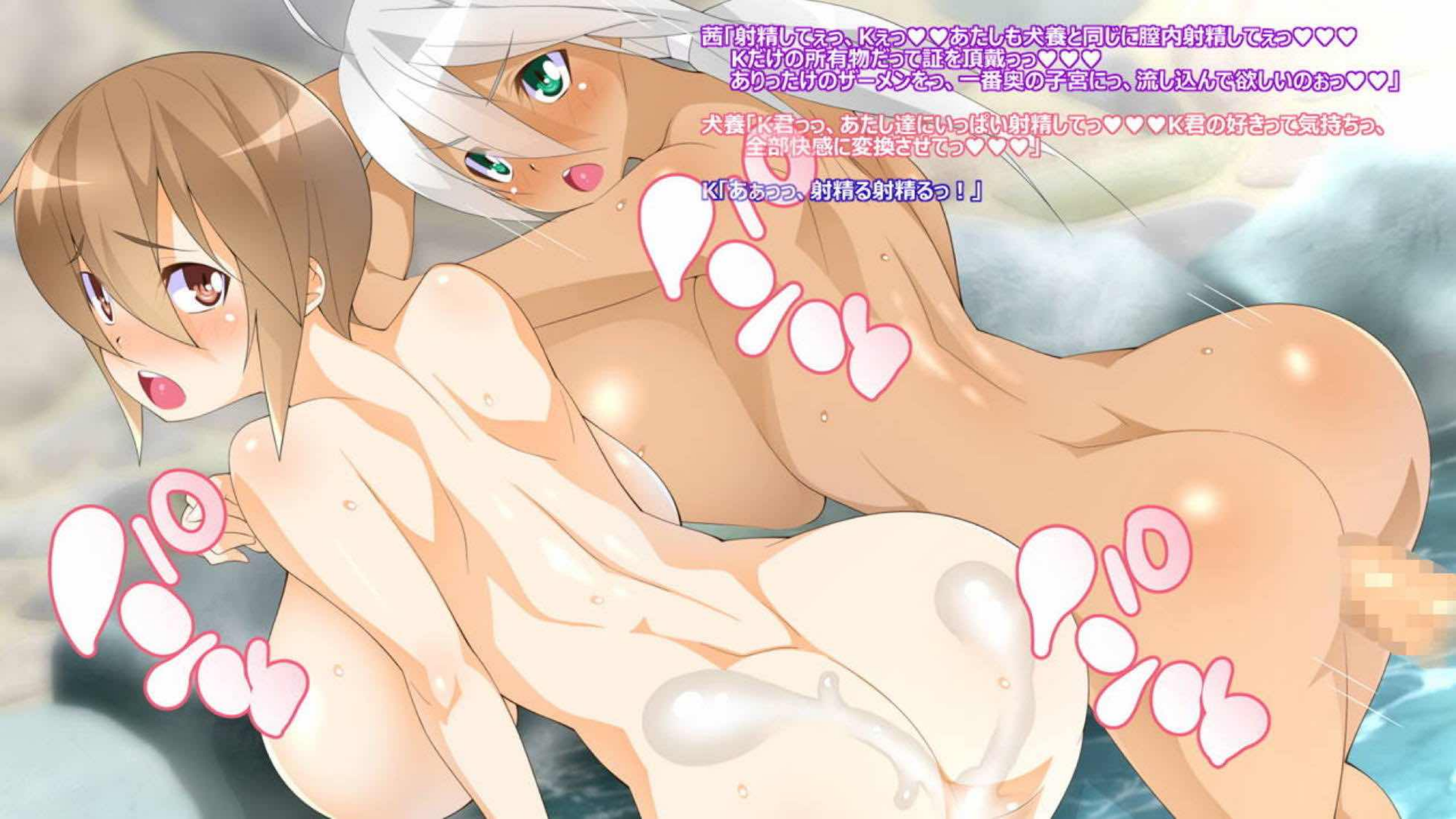
犬養「っっっっっっっ――――――――――――――――――――――――♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥」
K「うぉおっっ！！」
茜「すごっ、犬養の身体痙攣してるっっ♥♥♥絶頂迎えるとこんな風になっちゃうんだーっ♥♥♥」
ぶしゅっ！
ぶしゅっ！
ぶしゅっ！

犬養「はぁ…っ、はぁ…っ、はぁ…っっ♥♥♥んぁ…っっ♥♥膣内…っ、オマンコの中あ…っ、熱いので…っ、いっぱぁい…っ♥♥♥」
K「うぅ…っ！ふぅ…っ！！」
茜「K、ひとまずお疲れさま～っ♥♥申し訳ないけど、続けて2回戦イけるかなーっ？♥♥」
K「もちろん…っ。じゃあ…っ！」
はぁ～っ♥
ビュッ♥
ビュッ♥

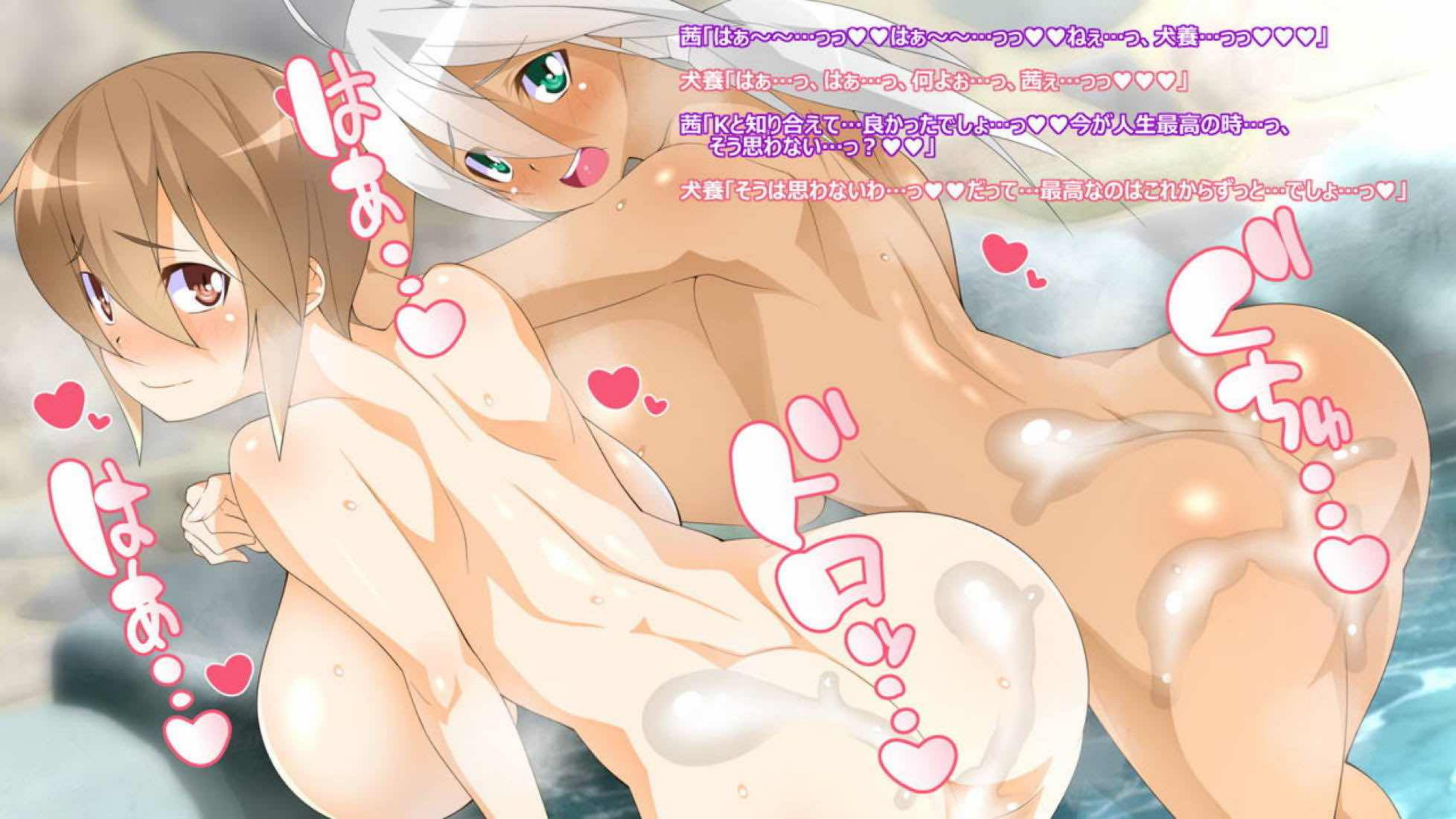
茜「んぁあっっ♥♥♥きたぁっ♥♥ぶっといのぉっ♥♥んひっ♥♥あっ、あっ、あぁっ♥♥♥」
茜「すごっ♥♥さっき射精したばっかなのにっ♥♥全っ然っ、衰えてないっ♥♥♥さっきまで犬養の膣内に入ってたチンポがっ、今度はあたしのっっ♥♥んぉおっっ♥♥♥」
犬養「茜ぇ…っっ♥♥Kのオチンポ…っ、無敵だよぉ…っっ♥♥♥あたしら魔女が…何人かかっても…っ、勝てるわけないよぉ♥♥」
パンパン
パンパン
ズプズプ

K「ねーちゃんの膣内も…っ、ヤバいくらい気持ちいい」
茜「んくっ♥♥んぁあっっ♥♥気持ちいいっっ♥♥Kチンポっ、あたしも気持ちいいっっ♥♥犬養の上でっ♥♥オマンコ突かれてよがりまくってるうっ♥♥♥」
犬養「んもぉ…っ、あれだけあたしの膣内に射精したっていうのに…っ♥♥茜の事っ、犯したくてたまんないって、膣内射精したくてしょーがないんだね…っ♥♥」
ズポズポ
ズポ

茜「わかるでしょっ、犬養もっ♥♥あっ、あっ♥♥これはっ、Kとあたし達のっ、交尾っっ♥♥
あたし達はっ、Kに犯されるっ、そのためにっ、今まで生きてきたんだからぁっ♥♥♥」
茜「魔男だとかっ、そんなの関係ないっ♥♥KがKならっ、それでいいっ♥♥オチンポの事だけ
考えられればぁっ♥♥」
K「はぁっ、はぁっ！二人ともっ、エロすぎ…っっ！」
パンパンパンパン
ズチュッ
ズチュッ


茜「射精してぇっ、Kぇっ♥♥あたしも犬養と同じに膣内射精してぇっ♥♥♥
Kだけの所有物だって証を頂戴っっ♥♥♥
ありったけのザーメンをっ、一番奥の子宮にっ、流し込んで欲しいのぉっ♥♥」
犬養「K君っっ、あたし達にいっぱい射精してっ♥♥♥K君の好きって気持ちっ、
全部快感に変換させてっ♥♥♥」
K「あぁっっ、射精る射精るっ！」

茜「っっっっっっーーーーー♥♥♥んぉおっっっ♥♥♥♥イクイクッ、
イックううううっっっ♥♥♥♥♥」
犬養「茜もイってるっ♥♥あたしと同じにっ♥♥♥K君にいっぱい
膣内射精されながらっ♥♥♥」
K「ぐっっ、うう…っっ！！射精るう…っっ！！」
ぶびゅっ！
どぶびゅ！
ぶびゅる！


茜「はぁ～～…っっ♥♥はぁ～～…っっ♥♥ねぇ…っ、犬養…っっ♥♥♥」
犬養「はぁ…っ、はぁ…っ、何よぉ…っ、茜ぇ…っっ♥♥♥」
茜「Kと知り合えて…良かったでしょ…っ♥♥今が人生最高の時…っ、そう思わない…っ？♥♥」
犬養「そうは思わないわ…っ♥♥だって…最高なのはこれからずっと…でしょ…っ♥」
はぁ…♥
はぁ…♥
ビちゅ…♥
ドロッ…♥